

平成26年度文部科学省採択

「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」

しまなみの生活と文化を守り育てる
人づくり・つながりづくり

平成28年度 活動報告書



今治明德短期大学

目 次

目次	1
1. 学長あいさつ	2
2. 市長あいさつ	3
3. 事業概要・事業構成図	5
3-1 地(知)の拠点整備事業概要	6
3-2 本学の取り組み	6
3-3 事業組織図	7
3-4 今治市一徳短期大学の連携図	8
4. 活動報告	9
4-1 地域交流実践演習	10
歴史文化の集積と発信活動	
文化の継承を老から幼へ活動	
島しょ部への地域開発構想	
4-1-1 地域交流実践演習Ⅰ	10
4-1-2 地域交流実践演習Ⅱ	17
4-2 ふれあいの場共同学びの場事業	31
4-2-1 ふれあいの場(地域の子育て広場)活動	31
4-2-2 児童・障がい者・高齢者の共同学びの場活動	35
4-3 福祉と障がいについての教育及び地域文化集積と伝承教育事業	38
4-3-1 『お接待』等の「ボランティア養成講座」開催	38
4-3-2 島しょ部への地域開発構想	42
4-4 調理・製菓技能教育及び特産品開発支援と講習事業	45
4-4-1 「特産品開発講習会」活動	45
4-4-2 「家族の料理・菓子教室」活動	46
4-5 食育及び健康栄養教育事業	48
4-5-1 「子供を対象とした食育講座」開催	48
4-5-2 「中高年対象の栄養・健康講座」開催	50
4-6 ライフデザイン学科 国際観光ビジネスコース	53
4-7 大学公開講座	54
4-8 シンポジウム	55
4-8-1 地(知)の拠点整備事業(COC事業)シンポジウム	55
4-8-2 文部科学省「地(知)の拠点大学による地域創生推進事業」 COC/COC+全国シンポジウム	58
4-9 研究	59
4-9-1 「地域の子育て広場」活動参画による学生の学び －COC事業での「ふれあいの場事業」(めいたんパーク)を通して－	59
5. 今治市連携協議会	61
5-1 今治市 今治明德短期大学 連携協議会	62
6. 第三者評価委員会	65
6-1 第三者評価委員会	66
7. 参考資料	69

はじめに



本報告は、『知(地)の拠点整備事業』3年目となる平成28年度における活動と成果をまとめたものです。

事業は「しまなみの生活と文化を守り育てる人づくり・つながりづくり」をテーマに、『4事業10活動』(以下『10活動』)そして『地域交流実践演習』(『実践演習』)を両輪にして推進されています。

『10活動』は、学科、コースそれぞれが有する専門性、教育研究機能を活かした展開となっており、そのため、その活動内容は多岐に亘っています。ひとつの視点ではなく、多用な角度から、複眼的に本事業のテーマに接近していくというわけであります。

10活動の一つに「めいたんパーク」(地域の子育て広場)の運営があります。この活動は、子育て支援の一環として機能しており、延べにして、28年度は2100人の参加がありました。毎回イベントを企画し、その内容は地域の子育て層からのニーズに応えたもので、頗る好評でありました。学生はこのパークに参加し、親子関係の観察、乳幼児や保護者への対応など、日常の座学では学べない子育て支援の実際を体験しています。

『実践演習』は、平成27年度から共通教育科目として導入されました。すべての学生が受講します。学生は4グループに分けられ、グループ単位での学習を中心とし、そのメンバーは、学科・コースの枠を越えた横断的構成になっています。学生は、地域に出向き、見て、調べ、体験し、感じ、考える、といった五感を通したフィールドワークによって地域の課題を発見し、その対応策を提案し、実行していくという、能動的な学びを展開しています。

かように、個々の活動においては成果を上げているものと自負してはおりますが、課題がないわけではありません。活動内容が広い範囲に亘るとというのが本学の特色ではありますが、そのこと故、個々の活動が、その領域のみで終始し、さらに個々の成果がその活動単位だけで完結してしまう傾向が散見できました。つまり、各事業間の連携共同と成果の共有が不十分であるという点が浮き彫りになってきました。

28年度は、この課題を念頭に置き、横の連携を強めるということで、いくつかの活動で共同実施を試みました。共同活動によって、単独活動では得難い相乗的成果、またその成果の共有化が進むのではないかと期待したのであります。

今後は、部分的な共同から、全体的な共同化、つまり核となる事業活動を定置し、そこに他の事業活動を収れんさせていく、そのための方法も検討しなければならないと考えております。

本学は、「地(知)の拠点整備事業」の推進によって、今治市また地域との繋がりをより強めております。平成27年度からは、本事業は「COC+」に組み込まれ、地域が求める人材の養成と供給が求められるようになりましたが、本学の場合、養成校ということもあり、地域への人材供給には実績と歴史があります。

本学の目指すところは、地域に密着した、地域とともに歩み、地域とともに発展する大学であります。このことを、まさに本事業は具現化しようとするものであります。学内外の皆様、本学の事業にご理解をいただき、さらなるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今治明德短期大学

学長 野 口 学

市長あいさつ



菅 良二

今治市は平成17年1月に12市町村の合併により、瀬戸内海圏域の発展を担う県下第2位、四国第5位の人口を誇る都市となりました。

瀬戸内海国立公園の中心部に位置し、東洋のエーゲ海ともいわれる多島美や世界的な観光ポテンシャルを秘めたしまなみ海道をはじめとする素晴らしい景観、歴史文化遺産、伝統芸能、美術館や博物館、温泉地などのほか、山海の食材など多彩な地域資源に恵まれています。また、タオル、海事産業では、他に類がないほど集積化が進んでおり、石油関連事業、食品産業などを含めた製造品出荷額等では四国一を誇っています。

中でも、タオルでは、「今治タオル」のブランド化に取り組み、海事産業では、西日本唯一の国際海事展「バリシップ」が隔年で開催されるなど、世界に向けて今治を発信しています。

観光交流では、瀬戸内しまなみ海道は、「サイクリストの聖地」として世界中のサイクリストから注目され、平成28年度には自動車専用道路の本線をコースとした国際サイクリング大会が開催されるなど、本市の自転車新文化のシンボリックな存在となっています。また、「瀬戸内しまなみ海道スリーデーマーチ」では、全国から多くのウォーキング愛好家が訪れています。

行政の課題としては、「産業の活性化と雇用の創出」、「子育て環境の整備と子育て支援の充実」、「魅力ある地域資源を生かした、交流とにぎわいの創出」、「だれもが安心できる快適な暮らしの維持・確保」、「維持可能な行政運営の体制構築」など、多岐にわたって取り組むべき課題がございます。

このような中、地域に密着し、本市とつながりの深い今治明德短期大学が熱心に取り組んでいます「地(知)の拠点整備事業」も3年目を迎えました。平成28年度も、前年度に引き続き、地(知)の拠点大学による地方創生事業として活動を展開しています。地域の課題解決に向けて、「子育て支援」、「高齢者福祉」、「食文化」、「健康栄養」の専門的知識を生かし、4事業10活動を取り組み、地域の方々との交流の中で、諸課題の解決に大きく寄与していただいておりますことに深く感謝をしております。

今後も今治明德短期大学との連携を通して、明日の今治市を担うであろう本大学生からのすばらしいエネルギーもいただきながら、「ずっと住み続けたい“ここちいいまち”いまばり」づくりに取り組んでまいります。

3 事業概要



imjc
IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

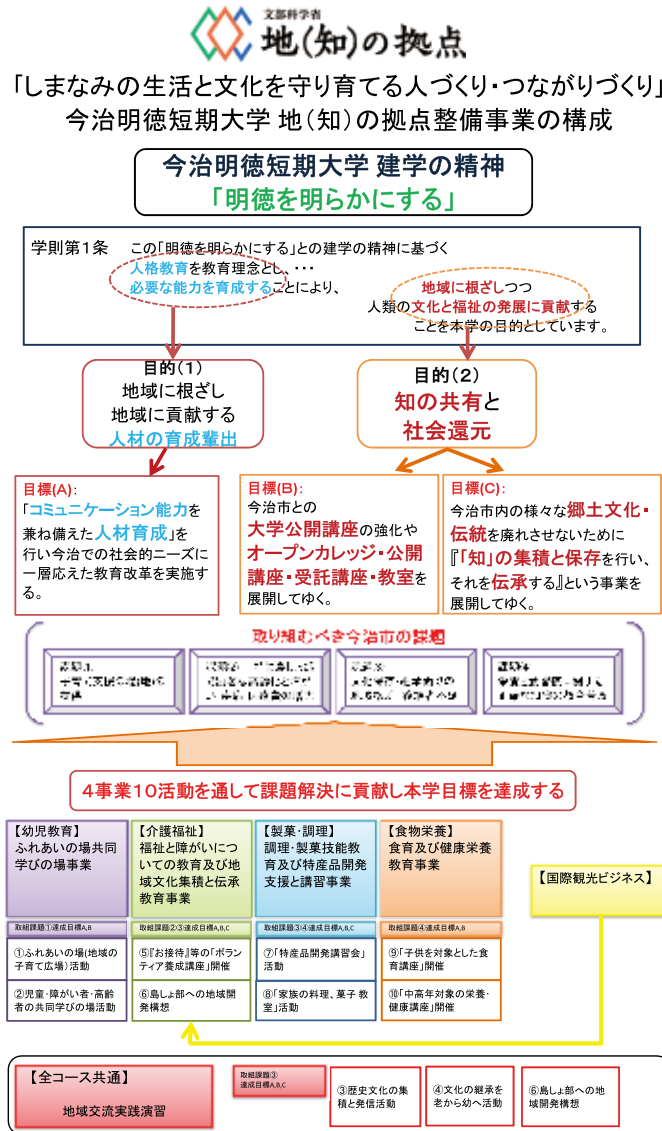
3-1. 地(知)の拠点整備事業概要

地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)は、自治体を中心に地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学等を支援すること、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ること、を目的としています。

3-2. 本学の取り組み

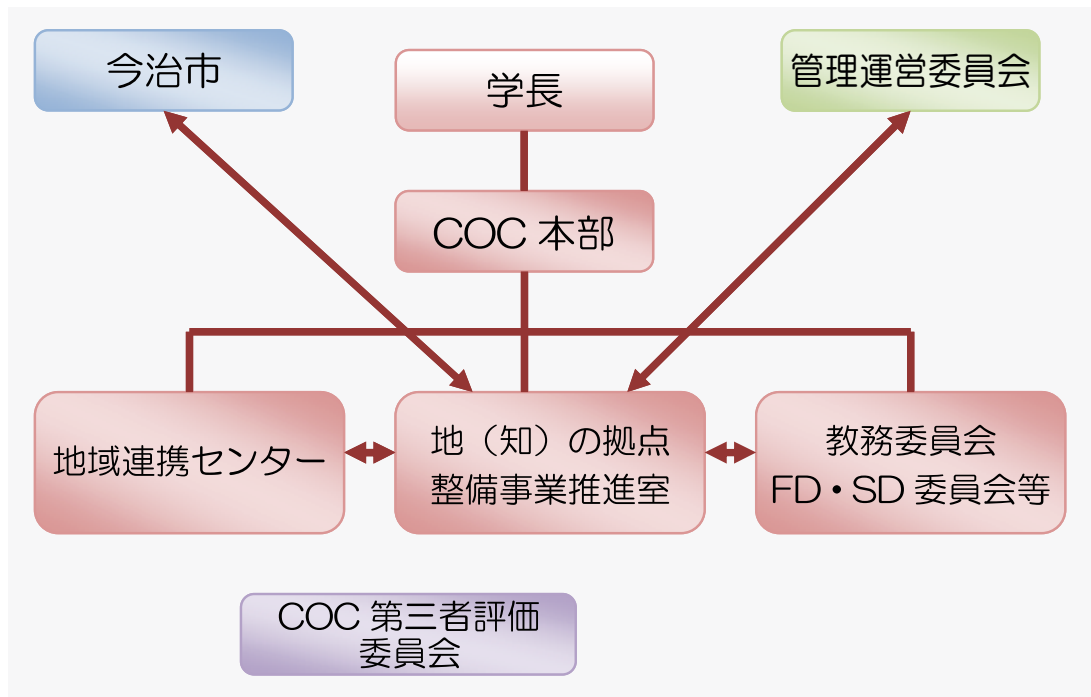
本学が今治市と連携し、建学の精神に基づき地域に根ざす大学として(1)人材の育成と(2)知の共有と社会還元という二つの目的を、3つの目標(A)コミュニケーション能力を備えた人材育成、(B)大学公開講座の強化『オープンカレッジ・公開講座・受託講座』の展開、(C)様々な郷土文化、伝統についての「知」の集積と保存、を達成することにより実現する。3つの目標は、地域交流実践演習及び4事業10活動を学科・コースの枠を超え、また今治市との連携のもと行うことにより達成していく。

事業構成図



3-3. 事業組織図

今治明德短期大学 地（知）の拠点整備事業「しまなみの生活と文化を守り育てる人づくり・つながりづくり」は、学長のリーダーシップのもと、今治市や関係機関と連携して活動していきます。直接の活動拠点となるCOC本部は、事業の検討・方針決定の場となり、推進室は事業・活動の調整の場となります。



関係機関

今治商工会議所 今治市社会福祉協議会 今治NPOサポートセンター
 NPOアクションアイランド

COC本部

目的：事業の検討・方針等を決定する。

構成員：学長・地（知）の拠点整備事業推進室室長及び副室長

COC コーディネーター、事務部長、その他学長が必要と認めた者

COC 推進室

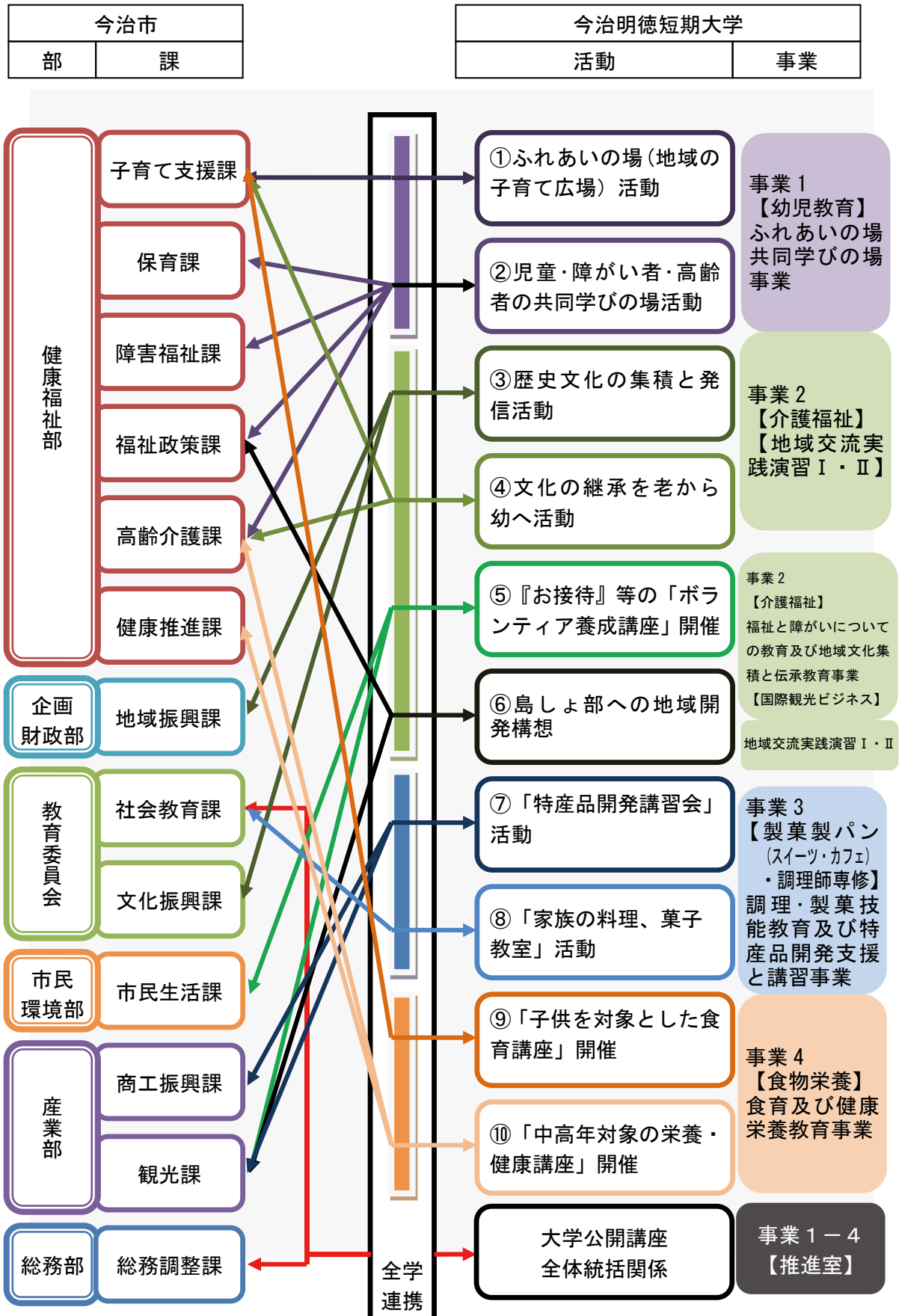
目的：地（知）の拠点整備事業の具体的な活動を計画し、調整する。

構成員：学科長、各学科コース及び専修科の専任教員、事務部長

その他事務職員、地（知）の拠点整備事業のために雇用された専任教職員・

COC コーディネーター

3-4. 今治市—明德短期大学の連携図



4 活動報告



imjc
IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

4-1 地域交流実践演習

歴史文化の集積と発信活動
文化の継承を老から幼へ活動
島しょ部への地域開発構想

4-1-1 地域交流実践演習 I

教育

平成28年度入学生 全員 幼児教育学科・ライフデザイン学科・調理師専修科

課題及び目的

地域やそこに生きる人々との交流を通して、地域における取り組むべき課題に気づき、自らその解決に向けて考え、実践していこうとする態度を培う。地域に関心を向けその良さに気づき、地域の人々と心地よいコミュニケーションをとることができるようになるとともに主体性をもって実践的に地域と関わる。また、実践を通して地域における課題を自ら考え、学んだことを適切な方法で発信することができる。

活動実施内容

平成28年4月14日(木) 14:30~16:00

オリエンテーション 学長あいさつ 授業の趣旨説明、アンケート

平成28年4月14日(木) 16:00~17:40

「文化の継承(料理)」本学講師による授業説明

テーマ「商店街の活性化」:「今治市商店街の現状説明」

講師:今治市商店街協同組合 理事長 新居田哲理氏

講師:今治市商店街協同組合 副理事長 友田康貴氏

平成28年4月23日(土) 8:50~12:00

テーマ「文化の継承(へんろ)」 「文化の継承(玉川)」 「観光(島とサイクリング)」

「四国へんろ道文化について」

講師:四国へんろ道文化 世界遺産化の会世話人 阿部芳司氏

「玉川地域活動について」

講師:今治市社会福祉協議会 地域福祉課 生活支援コーディネーター 木村玲奈氏

「サイクリングについて」

講師:今治市サイクリングターミナル・サンライズ糸山 支配人 川原賢二氏

①「商店街の活性化」32名

平成28年5月12日(木)~7月14日(木) 14:30~17:40

5月~7月(第2・4・5木曜) 14:30~17:40 地域活動のまとめ

6月9日(木) 14:30~17:40 商店街現地調査

7月28日(木) 14:30~17:40 まとめ、地域活動中間発表報告会

②「文化の継承(玉川)」14名

平成28年5月12日(木)~7月14日(木) 14:30~17:40

5月~7月(第2・4・5木曜) 14:30~17:40 地域活動のまとめ

5月28日(土) 8:50~14:20 ふれあい茶屋活動

7月28日(木) 14:30~17:40 まとめ、地域活動中間発表報告会

③「文化の継承（料理）」11名

平成28年5月12日(木)～7月14日(木) 14：30～17：40

5月～7月(第2・4・5木曜) 14：30～17：40 地域活動のまとめ

5月26日(木) 14：30～17：000 ゲスト講師による講話、グループワーク

6月23日(木) 14：30～17：40 料理試作

7月28日(木) 14：30～17：40 まとめ、地域活動中間発表報告会

④「観光と島（サイクリング）」38名

平成28年5月12日(木)～7月14日(木) 14：30～17：40

5月～7月(第2・4・5木曜) 14：30～17：40 地域活動のまとめ

6月23日(木) 14：30～17：40 自転車（ロードレース）協議会での立哨員について

7月14日(木) 14：30～17：40 大三島訪問調査

7月28日(木) 16：00～17：40 まとめ、地域活動中間発表報告会

9月8日(木) 6：30～15：30 大三島での「自動車（ロードレース）競技会」での立哨員としての活動

⑤番外編 学生9名 教職員5名 計14名

平成28年5月29日(日) 8：50～15：30 へんろ道体験クリーンウォーク in 今治に参加

詳細報告

- 平成28年4月14日(木) 14：30～16：00

オリエンテーション

学長あいさつ

授業の趣旨説明、地域についてのアンケート



- 平成28年4月14日(木) 16：00～17：40

テーマ「文化の継承（料理）」について本学竹田講師より説明
 地産食材を使って、地域の伝統料理や郷土料理を学ぶ

- 平成28年4月14日(木) 16：00～17：40

テーマ「商店街の活性化」：「今治市商店街の現状説明」

講師：今治市商店街協同組合 理事長 新居田哲理氏

講師：今治市商店街協同組合 副理事長 友田康貴氏

しまなみ海道の開通による島しょ部への航路の廃止及や減少。

郊外へ大型店の設置移転などにより来客数の減少、駐車場の問題
 など課題はある。学生の意見を取り入れて活性化を図りたい。



- 平成28年4月23日(土) 8：50～12：00

テーマ「文化の継承（へんろ）」

「四国へんろ道文化について」

講師：四国へんろ道文化 世界遺産の会 世話人 阿部芳司氏

へんろの歴史や四国のへんろ道を世界遺産化に向けての活動につ
 いて話をして頂いた。



「玉川地域活動について」

講師：今治市社会福祉協議会 地域福祉課

生活支援コーディネーター 木村玲奈氏

玉川地域活動（ふれあい茶屋、ワラシシ、グルメマラソン）について地域が頑張っているのので、若い皆さんの力や意見を取り入れて活性化を図りたい。



「サイクリングについて」

講師：サンライズ糸山 支配人 川原賢二氏

しまなみ海道のサイクリングに国内はもちろん、海外からも参加している。

サイクリングの聖地として、世界的に知られるようになった。

しまなみ海道をルートにして、国際サイクリング大会などが開催されている。



①商店街の活性化

平成28年5月12日(木)～7月14日(木) 14:30～17:40

5月～7月(第2・4・5木曜) 14:30～17:40 グループワーク

6月9日(木) 14:30～17:40 商店街現地調査

今治市商店街の店主の方にお店の歴史、商品の特徴について説明していただいた。店主の人柄にも触れることができた。

商店街の現状を知ることができた。

店主さんへのインタビューでは、聞きたいことを伝える難しさを知った。



②文化の継承（玉川）

平成28年5月12日(木)～7月14日(木) 14:30～17:40

5月～7月(第2・4・5木曜) 14:30～17:40 グループワーク

5月26日(木) 14:30～16:00 「ふれあい茶屋活動について」

今治市社会福祉協議会 地域福祉課

生活支援コーディネーター 木村玲奈氏



5月28日(土) 8:50～14:20 ふれあい茶屋活動

ふれあい茶屋で清掃活動をし、さらにや满天焼き（大判焼き）の作り方を教わった。

活動に触れ、玉川（鈍川地区）の自然や人々の温かさを感じることができた。



③文化の伝承（料理）

平成28年5月12日(木)～7月14日(木) 14：30～17：40

5月～7月(第2・4・5木曜) 14：30～17：40 地域活動のまとめ

5月26日(木) 14：30～17：00 ゲスト講師による講話、グループワーク
 「今治市の農業と地産地消について」

今治市農林振興課 村上敬子氏

今治市内の学校給食（1300食）で使用する有機農産物が、僅か4軒の農家で作られている事に驚いた。

今治は、米、野菜、果物、魚、肉、卵を地元産で賄うことが可能であり、私たちの食生活は豊かな食材に支えられていることを学んだ。



6月23日(木) 14：30～17：40 料理試作

郷土料理は、昔から人々に愛され、作り続けられている地域特有の料理である。

手軽に購入できるものや万人受けする料理は認知度が高いが、味や香りに特徴のある料理や作るのに手間がかかる料理は敬遠され、認知度が低いという現状にある。



④観光（鳥とサイクリング）

平成28年5月12日(木)～7月14日(木) 14：30～17：40

5月～7月(第2・4・5木曜) 14：30～17：40 地域活動のまとめ

6月23日(木) 14：30～17：40 自転車（ロードレース）協議会での立哨員について



7月14日(木) 14：30～17：40 大三島訪問調査

しまなみ海道の景観→大山祇神社→岩田健母と子のミュージアム



9月8日(木) 6：30～15：30 大三島での「自動車（ロードレース）競技会」での立哨員としての活動

大三島は自然が豊かで海に囲まれており、サイクリングに適した島であるということ学んだ。大三島への視察で大山祇神社を散策したが、歴史ある建物、2600年も長く立っているクスノキを見て素晴らしいと思った。

⑤番外編 学生9名 教職員5名 計14名

平成28年5月29日(日) 8:50~15:30 へんろ道体験クリーンウォーク in 今治に参加

「四国へんろ道文化」世界遺産化の会員と地域の方々とともに、第55番札所の南光坊から第59番札所の国分寺を目指して、へんろ道体験を行った。

当日、雨だったこともあり、ゴールが59番札所国分寺からJR伊予富田駅に変更になった。

休憩場所やお寺では、地元住民によるお接待を受け、歩きへんろの魅力に触れることができた。

学生たちは「お接待がとてもありがたかった。へんろに馴染みがなかったが、歩いてみて興味が湧いた。」と地域のおもてなしに心を和ませていた。

途中、チェックポイントでは、おへんろに関するクイズにも地域の方々と相談しながら答えを導きだしていた。



7月28日(木) 16:00~17:40 まとめ、地域活動中間発表報告会

①商店街の活性化

中心市街地にある商店街を活性化するには、どのような手立てを講じればよいかを商店街の情報、特に店主の魅力/materialを材料にして学生の視点で発表をした。



②文化の継承 (玉川)

料理班と清掃班にわかれて、玉川ふれあい茶屋と地域交流センターで活動をした。

地域の方と交流をするなかで、取り組むべき課題などが見えてきた。

玉川の良きところ

- 自然が多い
- 海が近くて温かい水はばかり
- 農産物が盛ん
- お年寄りの方たちみんな元気
- 知識が豊富
- いじり根が育つ
- 玉川の人たちが玉川に誇りを持っている



名物まとめ

- 鹿力レー
- 黒天焼酎
- ちらし寿司
- 栗芋の餅
- 煎餅
- よもぎ餅
- おぼろ
- いなり寿司



問題

- 店舗が古い建物
- 店舗のみの集まり
- 店舗に集まるための課題
- 店舗の集まりが難しい
- 店舗の集まりが難しい
- 店舗の集まりが難しい
- 店舗の集まりが難しい
- 店舗の集まりが難しい
- 店舗の集まりが難しい
- 店舗の集まりが難しい

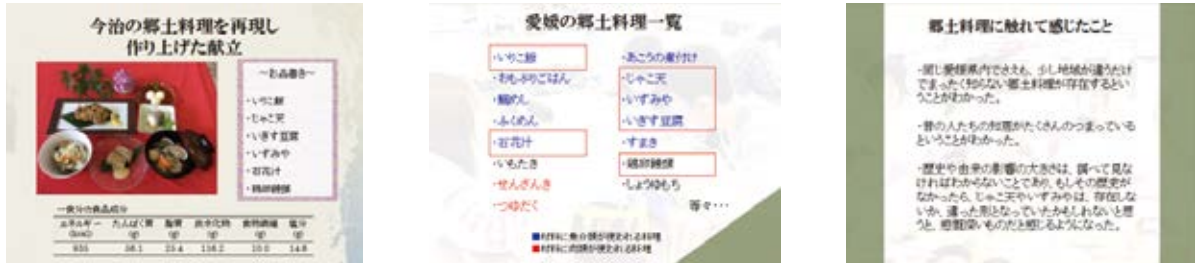
解決方法

- 店舗の集まりが難しい
- 店舗の集まりが難しい
- 店舗の集まりが難しい
- 店舗の集まりが難しい
- 店舗の集まりが難しい
- 店舗の集まりが難しい
- 店舗の集まりが難しい
- 店舗の集まりが難しい
- 店舗の集まりが難しい
- 店舗の集まりが難しい

③文化の継承（料理）

愛媛県内でも、地域によっては初めて見聞きする郷土料理が数多く存在した。歴史や由来を調べていく過程で、知識を増やすと同時に料理に対する興味が深まった。

郷土料理は歴史によって支えられ、昔の人たちの知恵がたくさん詰まっていることがわかった。次世代に継承する方法や役割を考える必要性を強く感じた。



④観光（島とサイクリング）



成果

「地域交流実践演習Ⅰ」では、地元ゲスト講師による4テーマについて、講演を実施するとともに、学生が活動をしたいテーマ選択を行った。「商店街の活性化」、「文化の継承（玉川）」、「文化の継承（料理）」、「観光（島とサイクリング）」の4つのテーマでグループワークや地域活動を行うなかで、学科コースの枠組みを超えた学生・教員の交流も増え、コミュニケーションの向上につながった。

今後の課題及び展開

テーマについて、関連施設等の見学をすることなどとして、1ヶ月間で選択し、1年間を通しての活動を理解した上で選択できたか疑問に残った。

その他資料
 新聞掲載記事



2016年6月1日付 愛媛新聞



2016年5月30日 読売新聞

4-1-2 地域交流実践演習Ⅱ

教育

平成28年度入学生 全員 幼児教育学科・ライフデザイン学科・調理師専修科

課題及び目的

地域やそこに生きる人々との交流を通して、地域における取り組むべき課題に気づき、自らその解決に向けて考え、実践していこうとする態度を培う。

「地域交流実践演習Ⅰ」での学習を踏まえて、主体性を持って実践的に地域と関わる。その中で、地域の方々との交流を深め、実践を通して考察したことをまとめて活動報告として発表する。

実施内容

詳細報告

①商店街の活性化

平成28年10月13日(木) 14:30~16:00

「今治市中心市街地活性化について」

今治市役所 商工振興課 市街地活性化推進係長 渡部 泰生氏
今治市の歴史、産業や中心商店街の現状について講話をいただいた。



中心商店街は中心市街地を代表するコンテンツの一つである。

中心市街地を活性化するためにまちなか居住の促進、まちなかのにぎわいづくり、まちなかの価値向上を図る施策に取り組んでいる。

まちづくりの基盤はものづくりであり、ものづくりの基本はひとつづくりである。

平成28年10月27日(木) 14:30~17:50 市街地に取材に行こう①

平成28年11月24日(木) 14:30~17:50 市街地に取材に行こう②

今治市役所商工振興課また、今治商店街協同組合のご協力、ご支援を受けながら、商店街の店主に店の歴史や商品についてインタビューをしてお店の魅力を調査した。

それぞれの店舗では、商店街に来ないと買えない、また創業が古い、独自の商品を開発するなどの努力をしているお店もあった。



②世代間交流（玉川）

平成28年10月13日(木) 14:30~16:00

「玉川地区の地域活動について」

今治市社会福祉協議会 地域福祉課

生活支援コーディネーター 木村玲奈氏

今治市社会福祉協議会の木村先生には、ワラシシ制作や玉川グルメマラソンなどの玉川地区の地域活動についてお話をし
ていただき、10月以降の地域活動に大いに参考になった。



平成28年10月16日(日) 8:50~16:00 ワラシシ作り体験

昨年から住民主体となって制作している「わらアート制作」に、初めて参加した。
地域の方にワラシシの足、尾っぽ、耳の細部のところは、ひとつひとつ丁寧に教えていただいた。
正月明けには、ワラシシを解体してわらを用いてどんとまつりを行うことも知ることができた。

平成28年11月27日(日) 8:50~16:00 玉川グルメマラソン

グルメマラソンでは、地域の特産物を使った料理やデザートなどを知ることができた。
給水所で、マラソンランナーが来るまで、地元の方との話を弾ませ、交流を深めた。



③文化の継承（料理）

平成28年11月26日(土) 8:50~16:00 地元ゲスト講師による調理実習

地域の料理の達人をゲスト講師に迎え、郷土料理「もぶりめし」「海老のかき揚げ」「季節の天ぷら」
「酢の物」「がら揚げの味噌汁」「ういろう」を試作し、目分量を数値化してレシピにまとめた。
地域にまつわるお話を伺いながら食べる味は格別で、さらに郷土料理に対する興味が高まった。



④観光（島とサイクリング）

平成28年10月8日(土) 8:45~16:00 大三島サイクリング活動と現地調査

学生32名、教員6名が参加し、協力者の井手先生、大三島地域おこし協力隊森先生に同行して
いただいた。

学生は、グループに分かれて「走る」「見る」「食べる」ことを楽しみつつ、地域の方々とふれあいながら、元気にサイクリング活動を行うことが出来た。この活動をもとにサイクリングマップ作成に取り組んだ。

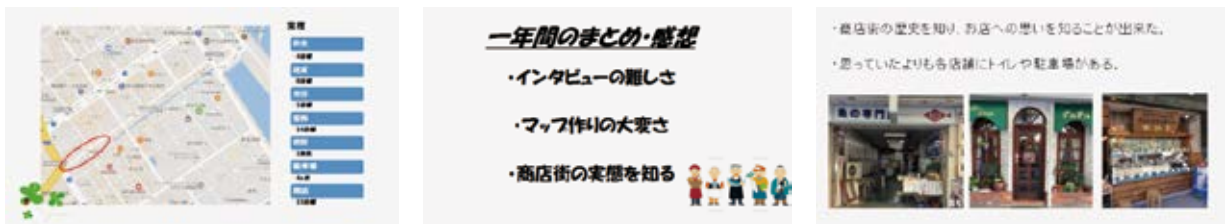


平成29年1月26日(木) 14:30~17:40 地域活動発表会

4つのテーマ（商店街の活性化・文化の継承（玉川）・文化の継承（料理）・観光（島とサイクリング））について各グループによる地域活動発表会を行った。

・グループ1：商店街の活性化班

1年間を通して商店街に出向き、商店主へのインタビューや現地調査を行った。商店街の長い歴史と商店街の現状について深く知ることができた。インタビューを通してお店の方の優しさや温かさを実感した。



・グループ2：文化の継承（玉川）班

参加する前は玉川の名前を聞いたことしかなかったが、色々な活動を通して生き生きとした玉川の姿を知ることができた。地域の人たちや友達と協力してできたときの達成感が感じられてとてもよかった。もっとチラシを配るなど、玉川地域の人たちでなく、玉川以外の人にも知らせてきてもらえるとさらに玉川の活性化につながると思った。



・グループ3：文化の継承（料理）班

今回の学習・交流で、季節や行事にちなんだ行事食や郷土料理は、地域の特産物を使用した独自の料理法で作られており、大切に受け継がれてきたことを知った。

地域交流実践演習を通じて、今治のみならず日本ならではの郷土料理や食文化への理解を深めるために、今回経験したことを発信したいと感じた。



・グループ4：観光（島とサイクリング）

後期は、レンタサイクルを使って、北側周りコース（初心者向け）と南側周りコース（中・上級者向け）の2つコースに分かれて、大三島の現地調査を実施した。

「走る」「見る」「食べる」の3つのグループに分かれて、それぞれ学生目線でのマップの作成をした。グループの中には、中国からの留学生もおり、日本語と中国語を併記したマップは、今治市内の観光案内所や道の駅に置いていただいた。



成果

「地域交流実践演習Ⅱ」では、各学科・コースの枠を超えたグループワークや地域活動が1年間を通じたグループにより、学生・教員間の交流も増え、コミュニケーションの向上につながった。

昨年度からのテーマを継続したことにより、地域とのつながりが深まり、地域でのイベント等の依頼も来るようになった。

マップを作るという目標を達成することができ、道の駅や観光案内所に配布するなど、情報発信ができた。

今後の課題及び展開

学生が躓いている時に、活動を活発にするような声かけなど、教員のファシリテーターとしての役割が必要である。

また、教員も学生と同様に、学科・コースを超えたグループでの活動となっているため、なかなか時間が取れないこともあり、打合せなどが不十分であった。今後は、教員間の連携を密に図る手立てを考えていきたい。

地域交流実践演習Ⅰ・Ⅱ

平成28年度入学生 全員 幼児教育学科・ライフデザイン学科・調理師専修科

授業アンケート調査

地域志向科目（「地域交流実践演習Ⅰ・Ⅱ」）に対する意識調査を学生・教員を対象に実施した。結果は以下のとおりである。

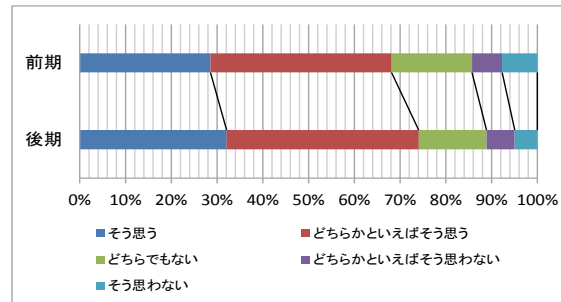
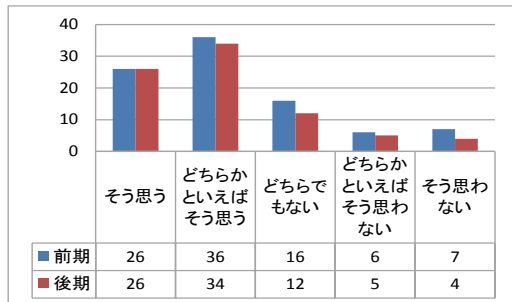
（１）学生対象を対象としたアンケート調査

「地域交流実践演習Ⅱ」授業アンケート調査前期・後期比

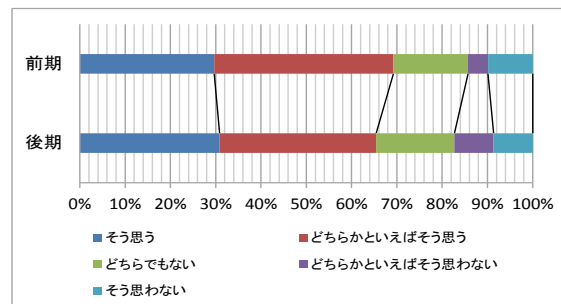
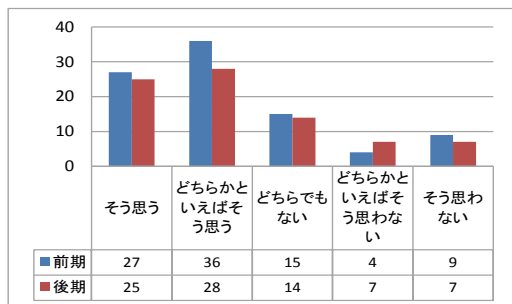
平成29年2月13日

	学生数	95名		学生数	90名
前期	アンケート 回答数	91名	後期	アンケート 回答数	81名
	アンケート 回答率	95.8%		アンケート 回答率	90.0%

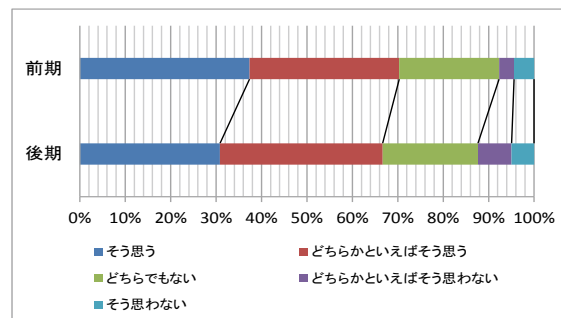
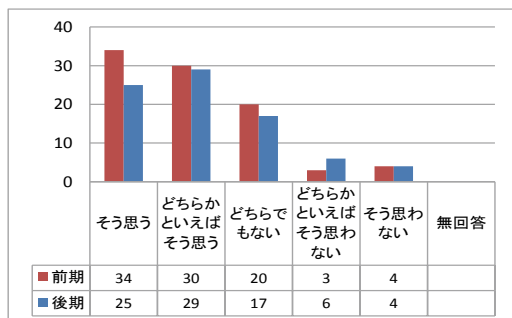
①授業の内容に興味・関心が持てた



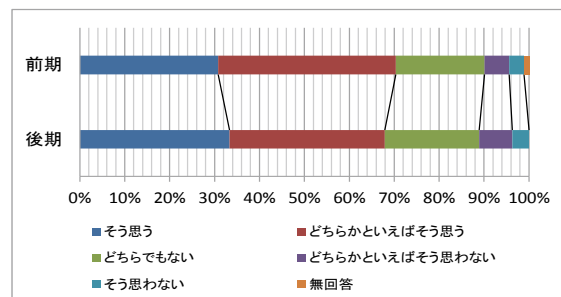
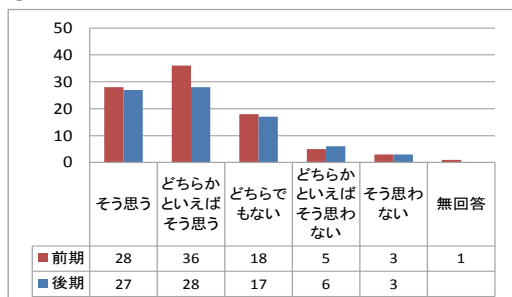
②授業の進め方は丁寧でわかりやすかった



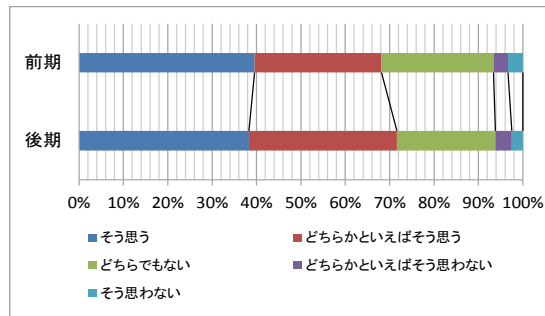
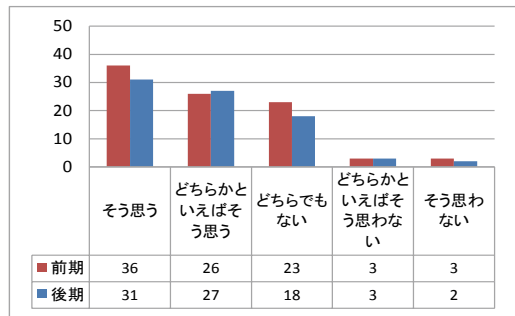
③授業は前向きに取り組むことができた



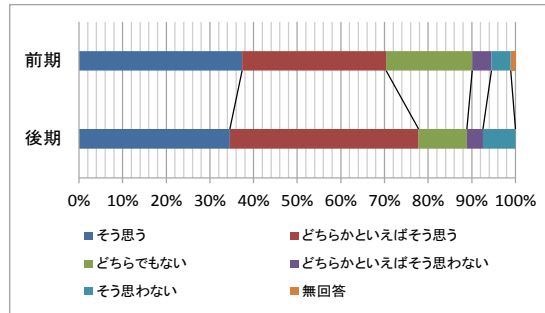
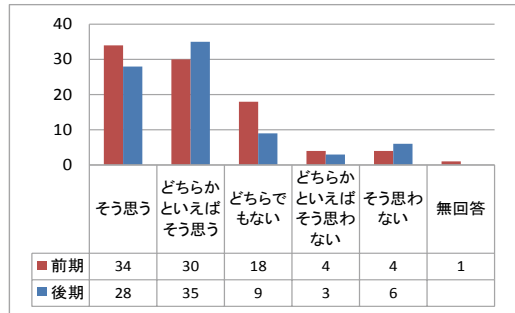
④授業中に私語を控えて集中することができた



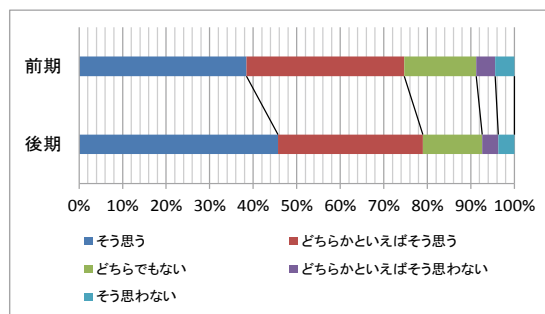
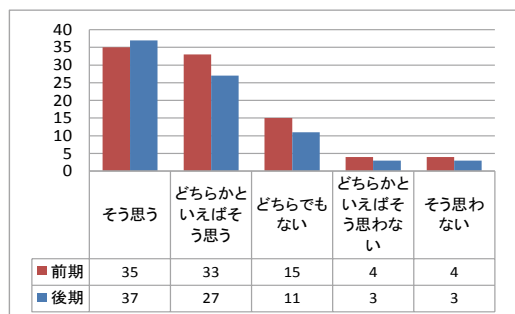
⑤グループワークでは回数を重ねるごとに発言しやすくなった



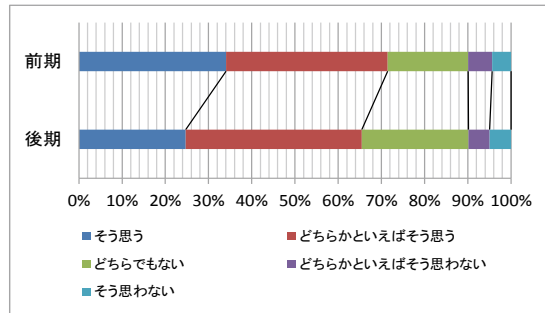
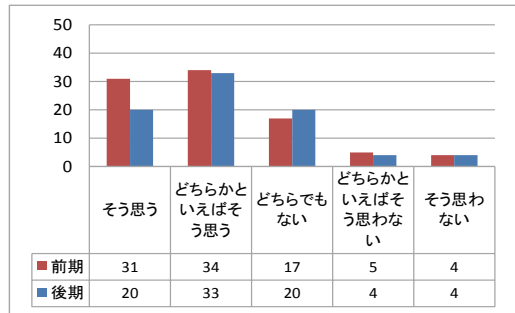
⑥授業を受けて地域に関心をむけるようになった



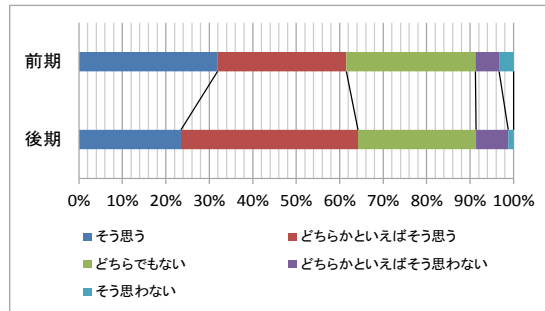
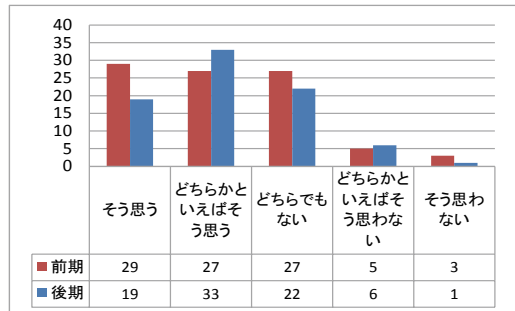
⑦授業を受けて地域の良さに気付くことができた



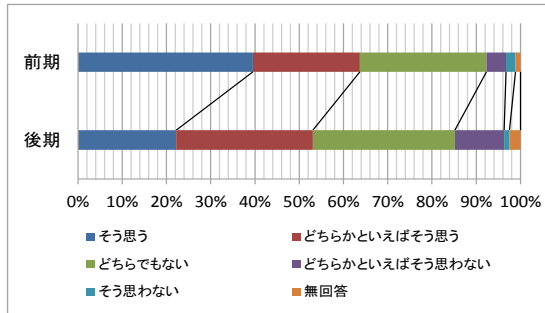
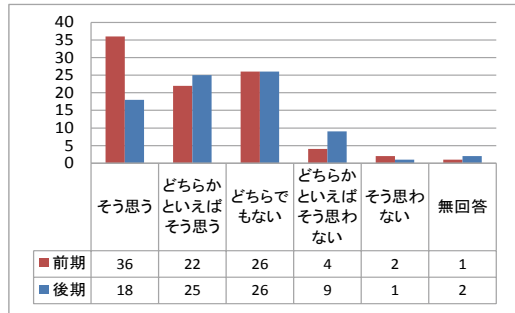
⑧授業を受けて地域の課題を考えるようになった



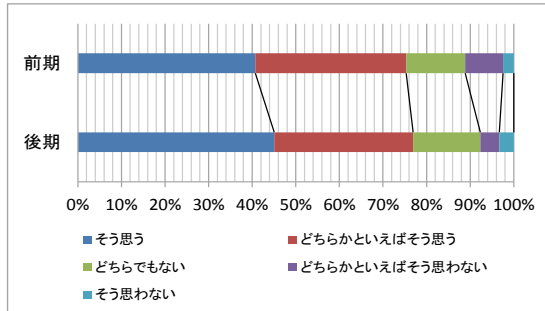
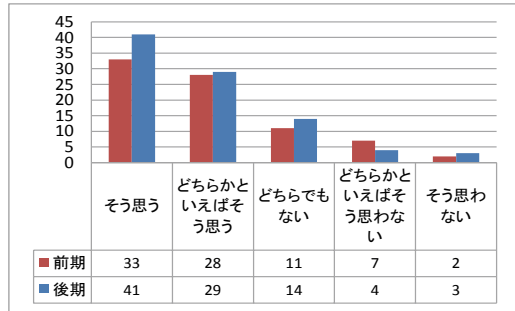
⑨地域交流の実践では、自ら進んで(主体的に)活動できた



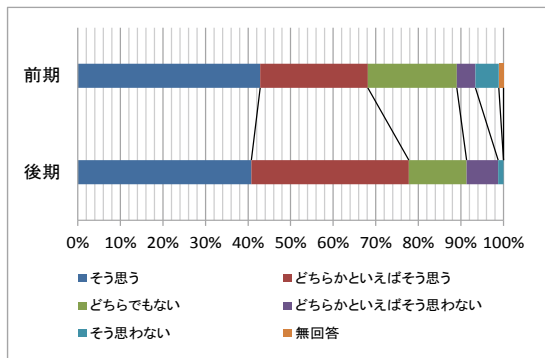
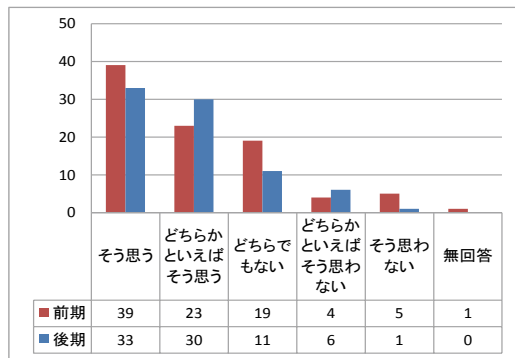
⑩授業を受けて学んだことや考えたことを自分から発言できるようになった



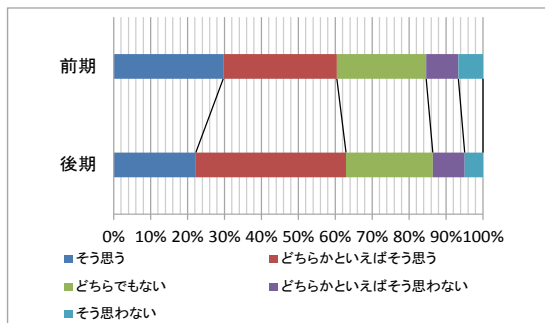
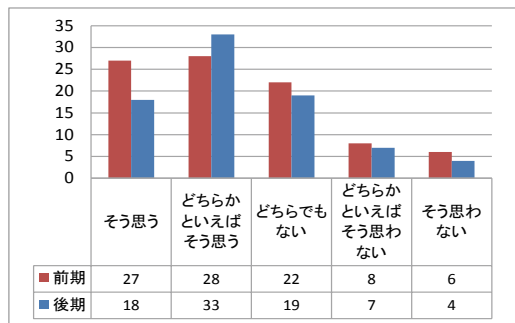
⑪授業を通じて他学科・他コースの学生と交流することができるようになった



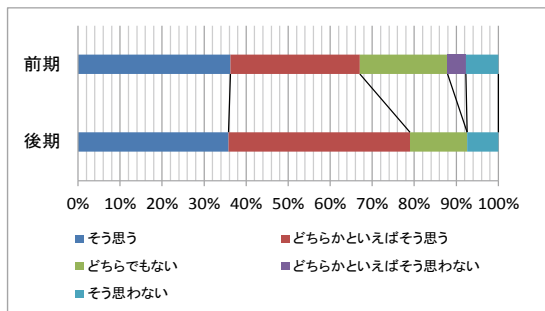
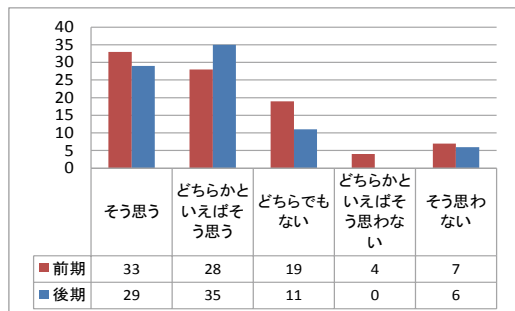
⑫授業を通して他学科・他コースの教員と交流することができるようになった



⑬授業を受けて今後も地域で実践活動をしたと思った



⑭総合的にみてこの授業は評価できるものであった



II 本授業で、印象に残ったこと、良かったこと、自分にプラスになることを記述してください。

7 月	1 月
<ul style="list-style-type: none"> 今まで自分が知らなかった地域の良いところ等、授業を通して知ることができた 他学科・コースの生徒や教員と交流することができた 地域での実践活動を通して地域の方と交流できたことが良かった グループワークを進める中で、みんなの意見を集約してゆくと現状における良い点、悪い点を判別できた 	<ul style="list-style-type: none"> グループワークをして他学科の方と交流を深めていけて良かった みんなと協力してやる楽しさ、達成感をたくさん味わうことができた 普段ではあまりできない人前にたって発表することで、少し自分に自信がついたことと良い経験になったことをうれしく思いました

III 本授業でこうすればもっと良くなること、改善してほしいことを記述してください。

7 月	1 月
<ul style="list-style-type: none"> 1回1回の授業を重ねることに、内容が明確化した方がよいかと思った 地域活動の文化の予習と復讐をしてほしい 少人数の班がやりやすく、自分にとっては良かったが、他の班は人数が多く発表の内容にバラツキが目立ち、わかりにくかったのが残念 	<ul style="list-style-type: none"> 最終的な目標を明確にして計画し、充実した授業にする 時間が長いので短時間で効率よく プレゼンテーションの話し方、ハキハキゆっくりと話すようにすればもっと伝わってくると思った

IV 本授業では、課題解決型学習の方法として、グループワークを試しました。グループワークを体験して、何か意見や感想があれば記述してください。

7 月	1 月
<ul style="list-style-type: none"> 他学科の生徒と関わることができて良かった 意見をまとめることの大変さを学んだ まとめるのに時間がかかった グループワークは楽しかった 	<ul style="list-style-type: none"> 授業数を重ねるにつれて他の学科コースの人と会話する回数も増え、普段はできないコミュニケーションがとれてよかった グループワークの意見は出て幅広く答え、考え方が出せて良い

V 本授業について、感想等、なんでも自由に記述してください。

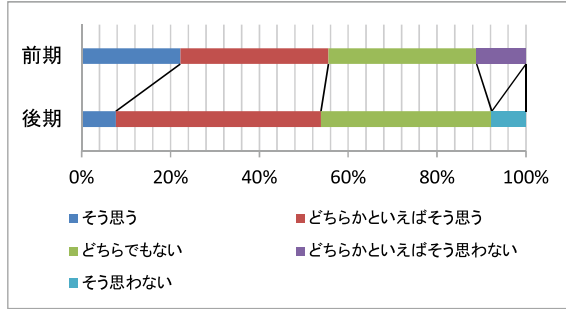
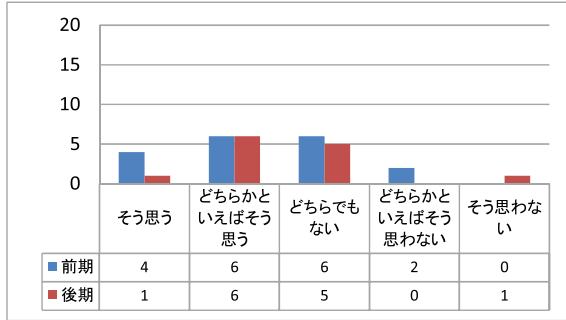
7 月	1 月
<ul style="list-style-type: none"> 色々な思いや感じ方が同じ部分と違うところの発見ができた 他の学科・コースの人との交流ができ、協力して取り組めてよかった グループに中国の学生がいて日本との違いがよくわかった 	<ul style="list-style-type: none"> 他の学科の人とコミュニケーションが取れて取り組めた 地域ボランティアに参加できて経験したことのないことができて良かった 本当に、よい経験になりました。自分に任されていると感じて、責任感はとてもありましたが、任務を果たすことができたので良かった

(2) 教員を対象としたアンケート調査

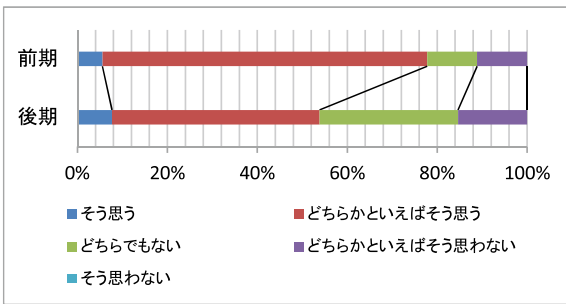
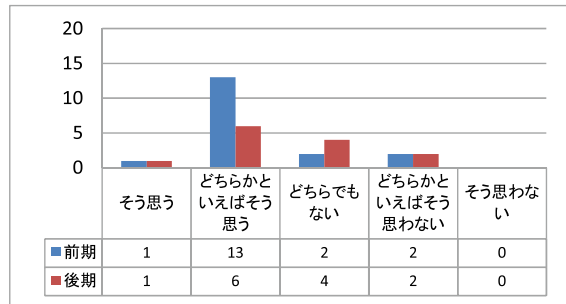
「地域交流実践演習Ⅰ・Ⅱ」授業アンケート調査 前・後期比較 平成29年3月15日

●アンケート参加人数 教員 18名 回収率 95%
 教員 13名 回収率 72.2%

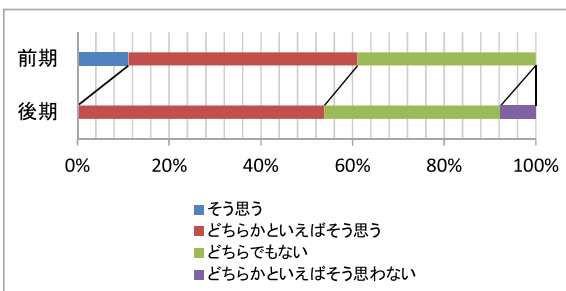
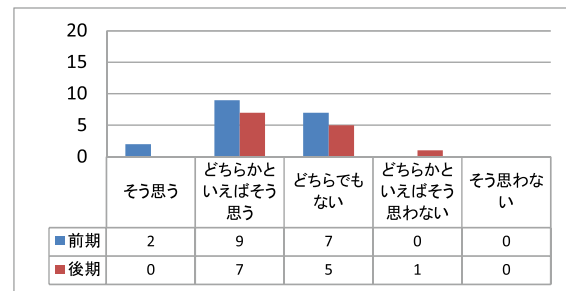
①授業の内容に興味・関心を持た



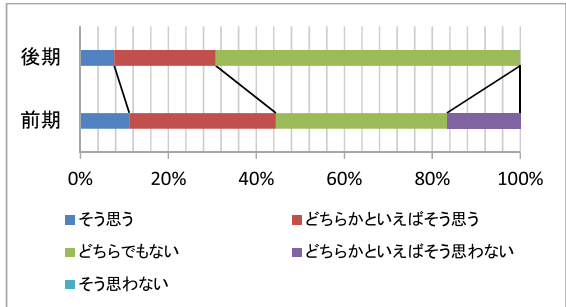
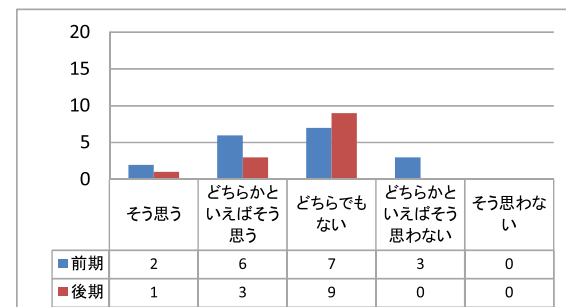
②学生はにとって授業の進め方は丁寧で わかりやすかった



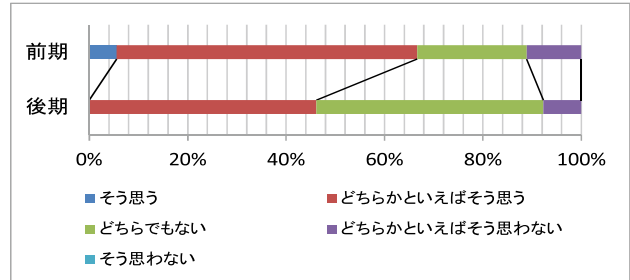
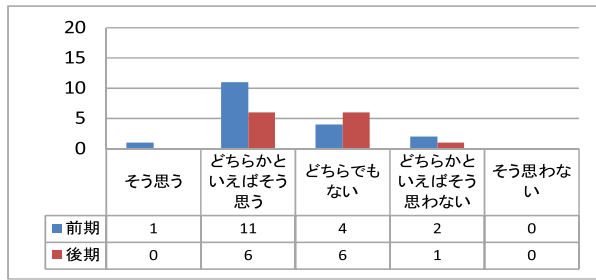
③学生は授業に前向きに取り組んでいた



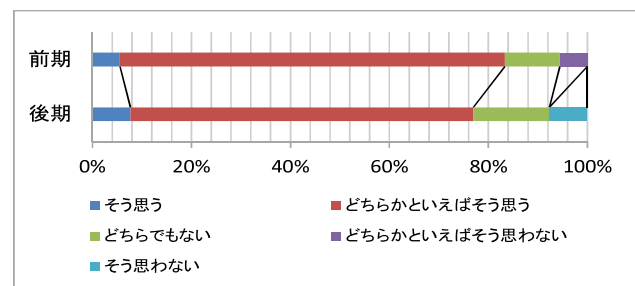
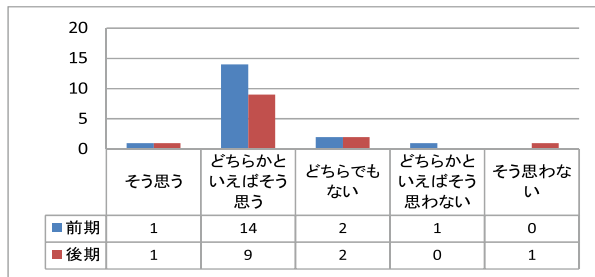
④学生は授業中に私語を控え集中していた



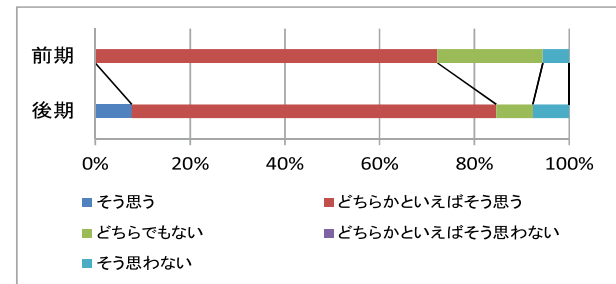
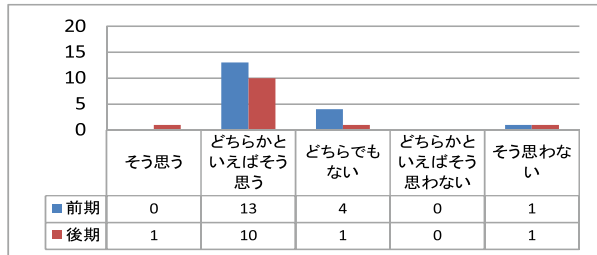
⑤学生はグループワークにおいて回数を重ねるごとに発言するようになった



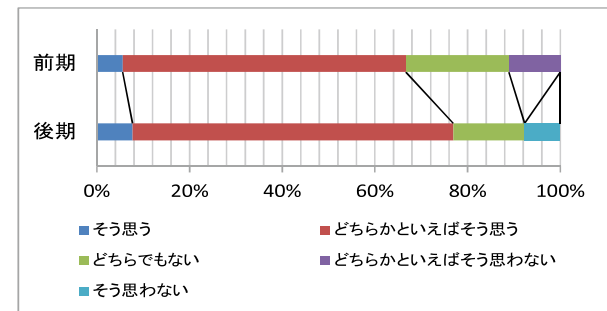
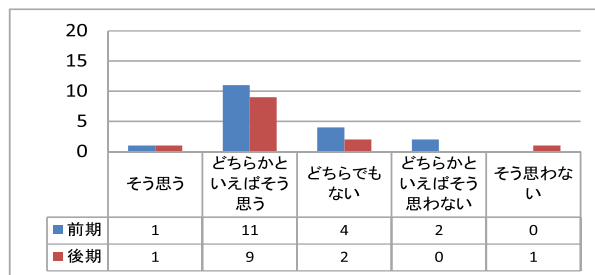
⑥「地域に関心をむける」という授業目標に到達した



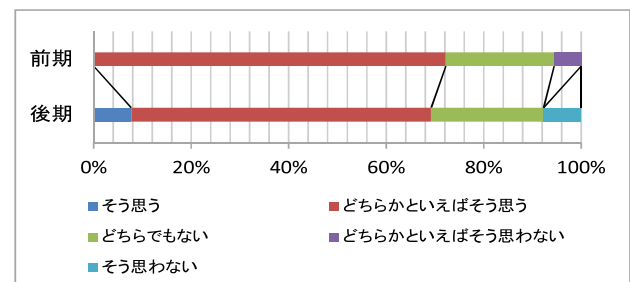
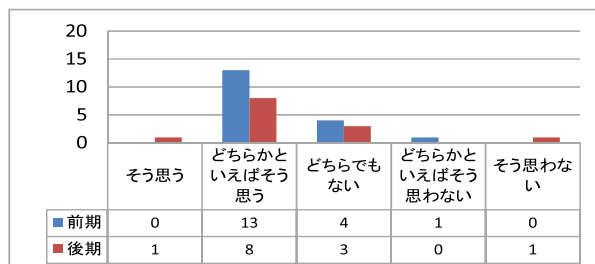
⑦「地域の良さに気付く」という授業目標に到達した



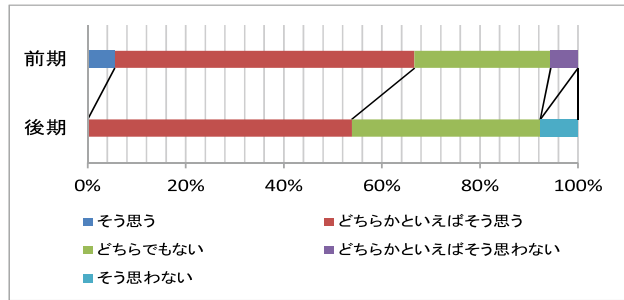
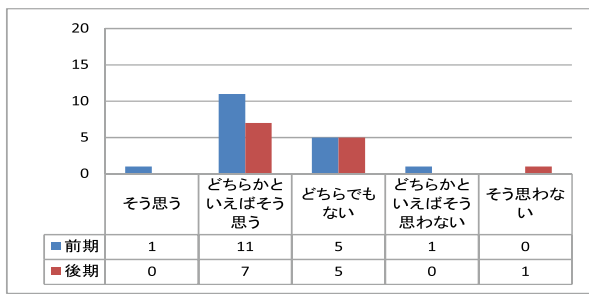
⑧「地域の課題を考える」という授業目標に到達した



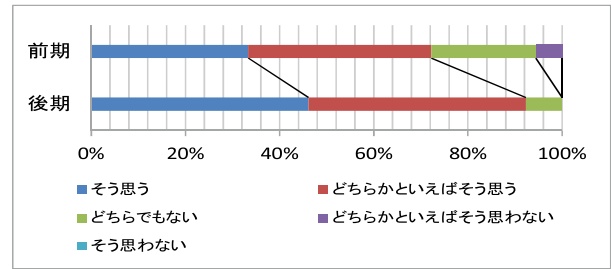
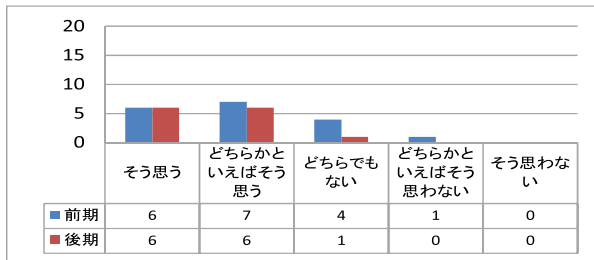
⑨学生は地域で実践活動をする意識を高めた



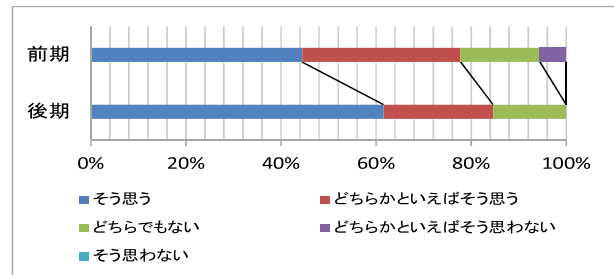
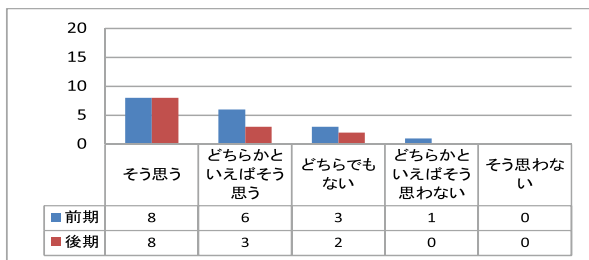
⑩学生は学んだことや考えたことを自分から発言することができるようになった



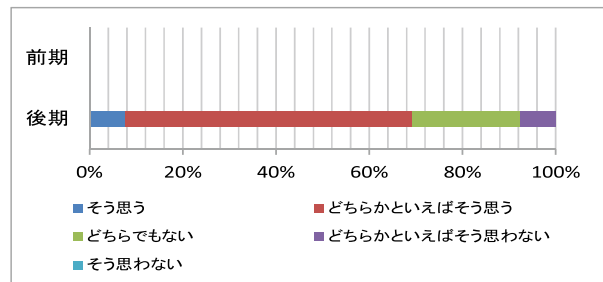
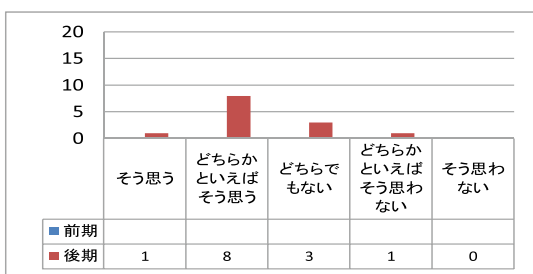
⑪教員自身、授業を通じて他学科・他コースの学生との交流が増えた



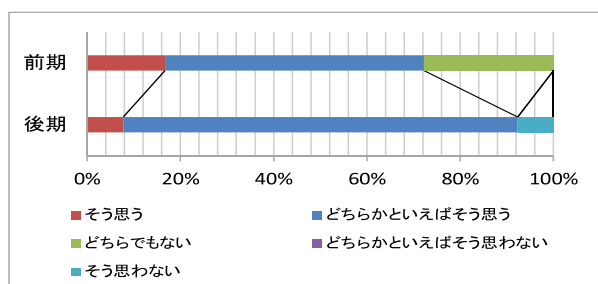
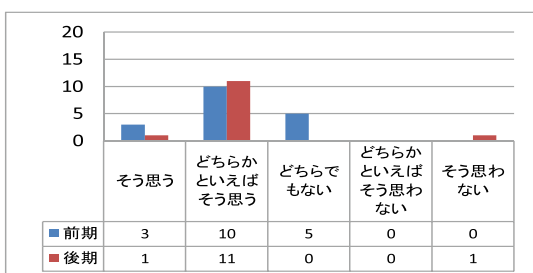
⑫教員自身、授業を通じて他学科・他コースの教員との交流が増えた



⑬学生は地域で活動実践をする意識を高めた



⑭総合的にみてこの授業は評価できるものであった



Ⅱ 本授業で、印象に残ったこと、良かったこと、自分にプラスになることを記述してください。

7 月	1 月
<ul style="list-style-type: none"> 他学科の学生・教員との交流がもてることは良いことだと思う。学科での授業以外の学生の姿を知ることができる 前年度に引き続いてのテーマのグループは研究の流れは良かったのですが、マンネリ化とも感じられた。後期の展開の工夫が必要だと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 学生が進んで演習には励む姿を見ることができ、学生の成長を間近で感じることができた 学生が地域に関心を持つようになった

Ⅲ 本授業でこうすればもっと良くなること、改善してほしいことを記述してください。

7 月	1 月
<ul style="list-style-type: none"> 人数のバラツキと学生の能力のバラツキにより、教員の負担が大きく変化することが気がかりである 今回、中間報告発表まで準備が少ししかなかったのもう少し時間が取ればよかったと感じた 	<ul style="list-style-type: none"> 地域と関わる関係上、演習時間や開講日が不規則で学生が混乱している場面が見られたこと 教員同士、積極的に協力し授業に取り組む 1つのテーマに対して、人数が多すぎると上手く授業を進めることが難しいので、あまりにも多くなるようなら、人数調整を行った方がいいのではないかと思った

Ⅳ 本授業では、課題解決型学習の方法として、グループワークを試しました。グループワークを体験して、何か意見や感想があれば記述してください。

7 月	1 月
<ul style="list-style-type: none"> どうしても教員主導になる場面が散見しました グループによって、積極的に発言するところとそうでないところの差が結構あったと感じた そのような差があると、全体で何かしようとする時も、上手くいかないで、まずは、学生が主体的に活動するような環境づくりをしなければならなかったと思った 	<ul style="list-style-type: none"> 発言する人、しない人の差が大きい。授業に統一感を持たせるのが難しかった グループワークでは、アドバイスをし、学生に参考にしてもらった ホームページの作成時には、得意な学生が率先して取り組み、他の学生も資料を提供の協力をし、全体的に力を合わせて一つの目標に向かっていく姿勢は素晴らしかったと思った

Ⅴ 本授業について、感想等、なんでも自由に記述してください。

7 月	1 月
<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の反省をいかし、テーマ別のグループでの活動を前期から始めたが、やはり、教員側の戸惑いも感じられる 教員間も学生同様にグループワークの特徴をもち、どのようにすればうまく展開できるか、試行錯誤しながらの展開である それぞれの持ち場で如何に教員が主体性をもつか、一方、学生に如何に主体性をもたせるか、難題であるが取り組みたい 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな学科・コースの学生と交流ができてよかった 学生の意欲を引き出すには、教員の力が必要だと思うので、教員間での連携が必要。教員負担の偏りがある 1年間じっくりと取り組むことができた 初年度に比べ、学生、教員も意欲が高まったと思った

地域志向アンケート調査

地域志向科目（「地域交流実践演習Ⅰ・Ⅱ」）受講者に対して、前期開始時、前期終了時、後期終了時の3時点でアンケート調査を実施し学生の意識の変化を調査した。その結果は以下のとおりである。

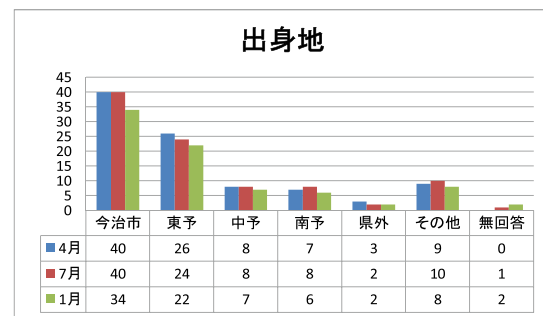
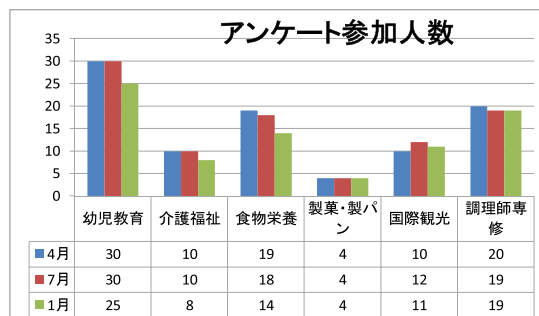
地(知)の拠点に関するアンケート調査

平成29年2月6日

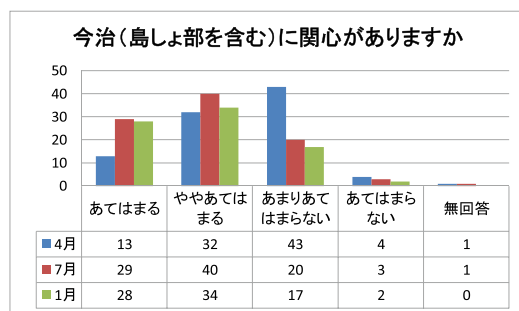
対象者 1年生全員

●アンケート参加人数 4月 93名 7月 93名
1月 81人

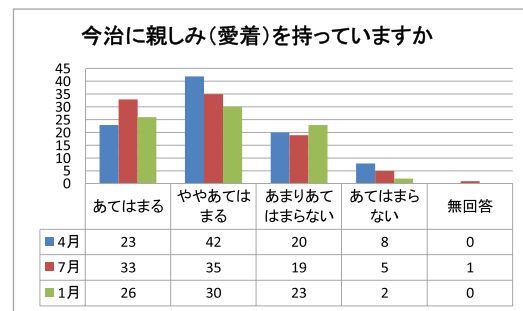
●出身地



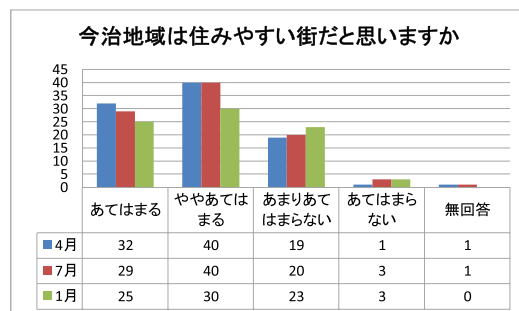
●①今治(島しょ部を含む)に関心がありますか



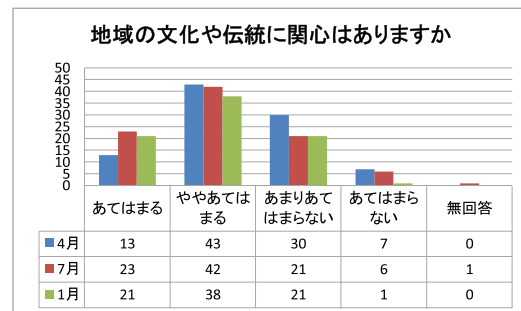
●②今治に親しみ(愛着)を持っていますか



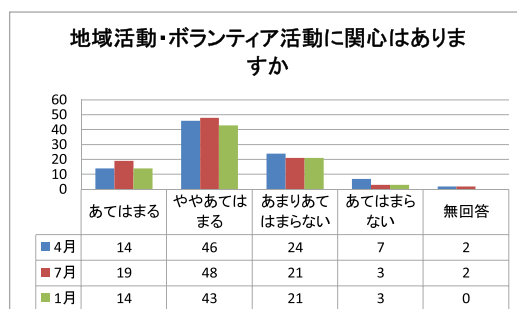
●③今治地域は住みやすい街だと思いますか



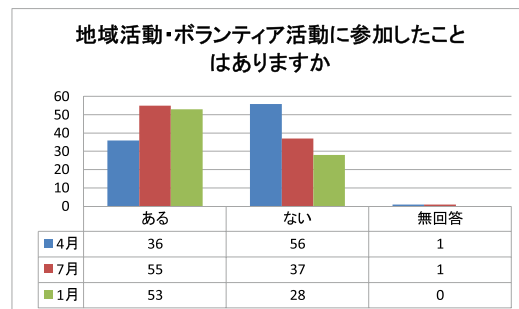
●④地域の文化や伝統に関心はありますか



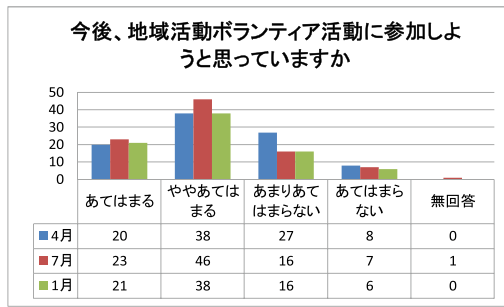
●⑤地域活動・ボランティア活動に関心はありますか



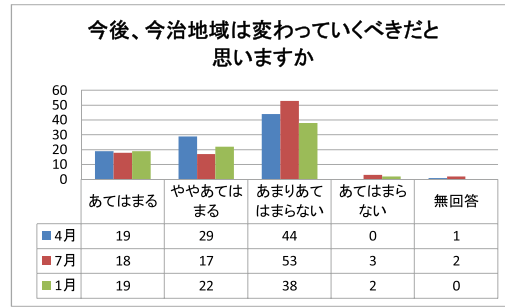
●⑥地域活動・ボランティア活動に参加したことはありますか



●⑦今後、地域活動・ボランティア活動に参加しようと思っていますか



●⑧今後、今治地域は変わっていくべきだと思いますか

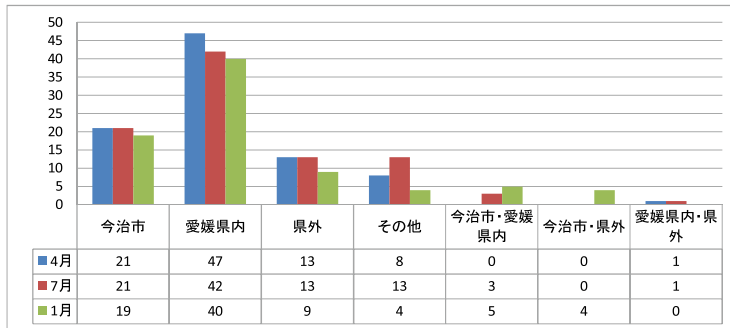


⑨どのように変わればよいと思いますか

(⑧の質問であてはまる、ややあてはまると答えた方のみ回答)

4 月	7 月	1 月
<ul style="list-style-type: none"> • 商店街を活性化してほしい • 就職した際、育児中でも働きやすい環境整備、福利厚生 • 高齢化に対応できるまちへ • 公共交通機関の充実（運行回数増など） 	<ul style="list-style-type: none"> • 商店街を活性化してほしい • 若者・高齢者がもっと住みやすい環境を作っていくべきだと思う • 公共交通機関の充実（運行回数増など） 	<ul style="list-style-type: none"> • 中心市街地の活性化 • 特産品を使った新製品の開発で地域を活性化させる。 • 観光資源を活かして全国、世界へもっとアピール。 • 公共交通機関の充実

⑩将来はどこで就職したいと思いますか



⑪地域に望む事はありますか

4 月	7 月	1 月
<ul style="list-style-type: none"> • 交通機関の充実 • 道路の整備 • 福利厚生 • 人材不足の解消 	<ul style="list-style-type: none"> • 交通機関の充実 • 交通マナーの向上 • 道路の整備 • 若者・高齢者が住みやすい街 • 娯楽施設を増やしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> • 交通機関の充実 • 地域活性化イベントを増やす • 明德短大に望むことがあれば言ってほしい • 安全・安心・治安の良さ。

4-2 ふれあいの場共同学びの場事業

4-2-1 ふれあいの場（地域の子育て広場）活動

教育・社会貢献

幼児教育学科

課題及び目的

「今治市子ども子育て支援会議」による子育て中の保護者へのニーズ調査の結果、「親子が安心して集まれる公園等の施設の整備」が行政への要望の上位となっている。こうしたニーズを踏まえ、子育て中の親が抱える悩みなどの解決の場として、地域の子育て広場「めいたんパーク」を定期的に開催する。

また、可能な範囲で「幼稚園教諭免許状を有する者における保育士資格取得特例講座」や「保育士免許状を有する者における幼稚園教諭免許状取得特例講座」の養成講座を課外講座として開催し、地域住民や施設の要望に応える努力をする。

活動実施内容

- 平成28年4月～平成29年3月 地域の子育て広場「めいたんパーク」開催の中で、親子対象に「楽しい遊び講座」を計38回実施。
- 平成28年10月30日(日) 学生祭ではオペレッタを実施。
- 平成28年4月～平成29年3月 計12回 子育て相談を実施。
- 平成29年2月1日(水) 「学生発表交歓会」を開催。

詳細報告

平成28年4月～平成29年3月 地域の子育て広場「めいたんパーク」(38回実施)
 「めいたんパーク」では、学生による手遊びや絵本の読み聞かせ、紙芝居等のプログラムの実施をした。親子のふれあいの時間として音楽を取り入れた「楽しい遊び講座」も実施した。



参加者は、地域の保護者・未就園児であり、参加者数は延べにして2,100人である。
 幼児教育学科学生67名は、「総合演習」の一環として参加した。

- 平成28年10月30日(日) 学生祭
 10月29・30日 めいたんパーク in 学生祭「ハロウィン研究所」を実施した。
 ピアノ練習室ではハロウィン工作、外ではハロウィンゲームと変装コーナーを実施した。今年、新たに実施したネイルコーナーも大盛況だった。
 各コーナーは、仮装した幼児教育学科2年生を中心に運営した。



2月に行われるイベントとして学生発表交歓会の題目を披露した。学生によるオペレッタの「ももたろう」・「クレヨンのくろくん」・「白雪姫」の実演を行った。



- 平成28年4月～平成29年3月 計12回 子育て相談を実施。
めいたんパークの学生による手遊び等の「楽しい遊び講座」のほかに、子育て相談日を月1回設け実施した。子育てに悩んでいるお母さん方に、子育て支援に取り組んでいるゲスト講師からアドバイス等を行って、次の相談日に子どもにどのような変化があったのか、記録し、経過を見ている。
子どもの変化を読み取りながら親も子も共に成長できるように見守っている。



- 平成29年2月1日(水) 「学生研究発表交歓会」開催。来場者数は地域の幼稚園・保育園児ら約500人。

1年生による手遊び、2年生による①「ももたろう」、②「クレヨンのくろくん」、③「白雪姫」のオペレッタをグループごとに実演。参加幼児は学生の呼び掛けに元気よく返事をし、それぞれ楽しく時間を過ごした。グループごとに歌など、学びの成果を発表した。



成果

教育

児童館職員の実技指導により保育技術の向上が図れ、学生は、地域の親子とのふれあいでコミュニケーション技術を磨くことができた。

卒業後に就職する保育所、幼稚園の園児たちが見に来てくれたことは、学生にとって励みとなっている。

社会貢献

地域の子育て親子にとって安心して遊ぶことのできる場を提供することができた。

今後の課題及び展開

教育

学科・コースの枠を超え、本学全体の取組みとして、子育て支援の課題をとらえていく視点を持ち、具体的な活動に結びつける。

社会貢献

今後も長期的に地域の子育て広場を継続して行う。
地域に本学の活動の内容及び成果を周知していく。

めいたんパーク活動内容と参加者の推移

平成28年度 地(知)の拠点整備事業 活動1 めいたんパーク参加者延べ人数

回数	開催日	内容	幼児(人)	大人(人)	2人連れ(組)	3人連れ(組)	新規(人)	
1	4月19日(火)	ふれあい遊び	24	20	4	0		
2	4月26日(火)	たのあそ「かいわれ栽培」	30	28	2	0	18	
3	5月10日(火)	お店屋さんごっこ	21	19	3	0	10	
4	5月17日(火)	森育	22	21	1	0	9	
5	5月24日(火)	サーキット「森のアイスクリーム屋さん」	36	28	9	0	13	
6	5月31日(火)	さつまいも苗植え体験	16	15	1	0	1	
7	6月7日(火)	風船あそび	43	38	5	0	11	
8	6月14日(火)	ママサロン 季節の工作(かえる・ジョウロ)	30	26	4	0	8	
9	6月21日(火)	宅急便ごっこ	35	26	9	0	9	
10	6月28日(火)	たのあそ「うちわ作り」	40	35	5	0	8	
11	7月5日(火)	七夕あそび	32	29	3	0	5	
12	7月12日(火)	ママサロン 七夕飾り作り	24	20	4	0	3	
13	7月19日(火)	サーキット「夏のあそび」	24	18	5	0	5	
14	7月26日(火)	夏祭り	69	43	20	4		
15	9月6日(火)	プレゼント作り	42	36	5	0	9	
16	9月13日(火)	ママサロン コースター作り	19	16	3	0	1	
17	9月20日(火)	新聞遊び	※台風(暴風警報)のため開催中止					
18	9月27日(火)	たのあそ「秋の外あそび」	18	16	2	0	0	
19	10月4日(火)	動物園ごっこ	27	22	5	0	5	
20	10月11日(火)	ママサロン ハロウィン工作	34	27	7	0	3	
21	10月18日(火)	リボンあそび	29	23	6	0	2	
22	10月29日(土)	学生祭						
23	10月30日(日)	学生祭						
	11月1日(火)	たのあそ「いもほり」	27	24	3	0	4	
24	11月8日(火)	森育	24	23	1	0	0	
26	11月22日(火)	サーキット「おいもほり」	28	21	5	1	6	
27	11月29日(火)	クッキング・やきいもパーティー	29	27	2	0	0	
28	12月6日(火)	学生プログラムA 楽器あそび・スノーボード作り	25	23	3	1	2	
		クリスマス会・点灯式	41	25	13	2		
29	12月13日(火)	学生プログラムB クリスマスゲーム・リース作り	18	16	1	1	2	
30	12月20日(火)	学生プログラムC 育にータイム・お正月カード作り	30	22	6	1	2	
31	1月10日(火)	お正月あそび	30	22	7	1	6	
32	1月17日(火)	木育	30	21	6	1	2	
33	1月24日(火)	サーキット「節分」	32	25	5	1	3	
34	2月7日(火)	スカーフあそび	30	26	2	1	7	
35	2月14日(火)	めーたんクッキング 子育て講座	27	23	4	0	0	
36	2月21日(火)	雪あそび	46	34	10	1	7	
37	3月7日(火)	お店屋さんごっこ	64	51	11	1	21	
38	3月21日(火)	サーキット「おべんとうバス」	68	47	21	1	16	
		小計	1,164	936				
		合計		2,100				
		1回平均	32	26				

めいたんパーク活動アンケート

「めいたんパーク」保護者アンケート概要-1

調査:平成28年10月実施 利用保護者29人
 年齢層:20代21% 30代58% 40代以上21%
 職業:専業主婦83% 有職10% その他7%
 住所:今治市内97% 今治市外3%
 現在の居住地での年数:
 1年未満21% 1~2年21% 3~5年34%
 6~10年14% 11年以上3%
 めいたんパークの利用回数:
 1回14% 2~4回24% 5~9回10%
10回以上48%
 めいたんパークを知ったきっかけ:
口コミ60% ちらし・おたより31%

「めいたんパーク」保護者アンケート概要-2

「めいたんパーク」に参加して保護者自身の子育てに変化があったか:ある79% ない7%

どのような変化があったか(複数回答あり):
子育てが楽しくなった48%
 子育てについての悩みが軽減した43%
 話し相手が増えた43%
 いらいらすることが減った35%
 地域の情報を知ることができた35%
 学ぶ楽しさを感じるようになった30%
 友だちができた30%
 学生との交流により視野が広がった17%

「めいたんパーク」保護者アンケート概要-3

自由記述

・会場の雰囲気もよく子どもたちが楽しめるような工夫がされているのでうれしいです。
 ・私も子どももいつも楽しみにしています。お着替えをいつも嫌がる2人ですが、「今日はめいたんパークの日だよ!」と言うとすぐに着替えてくれます。
 ・今治に来てまだ数カ月ですが、私も本人もこの施設を定期的に通うことができとても楽しんでます。

「めいたんパーク」保護者アンケート概要-4

・先生方が顔見知りになり、声を掛けて下さるので楽しく来ることができています。
 ・明るく、遊び道具も充実していたり人もたくさんいるので、子どもにとってもよい刺激になっていていいと思います。
 ・子どもがめいたんパークへ行くことをとても楽しみにしていて、楽しそうに過ごしている姿を見るのをとてもうれしく思います。

「めいたんパーク」保護者アンケート概要-5

大学で行う子育て広場に期待すること

・続けてほしい
 ・一度、子育てについて(絵本の読み聞かせ会)の話などを聞き、勉強になったので10~15分くらいでそうした話をもっとききたい
 ・年中のお姉ちゃんもめいたんパークに来ることを楽しみにしているので幼稚園児向けの活動もあるとありがたい
 ・子育てに関する悩みの解決など

「めいたんパーク」学生アンケート概要-1

調査:平成28年7月および平成29年2月実施
 対象:2年次の学生 7月33人、2月26人

めいたんパークへの取組姿勢・態度で有意に変化のあった項目内容

・子どもと主体的にかかわることができているか
 肯定的評価 7月88%→2月96%
 ・学生自身の子育て支援に対する専門性が高まると思うか
 肯定的評価 7月88%→2月100%

「めいたんパーク」学生アンケート概要-2

めいたんパークの学びの達成度で有意な(有意な傾向を含む)変化のあった項目内容

・安心して過ごせる環境づくりができた
 肯定的評価 7月82%→2月96%
 ・未就園児が楽しめる遊びについて学ぶことができた
 肯定的評価 7月85%→2月100%
 ・親子一人ひとりのニーズに目を向けることができた
 肯定的評価 7月58%→2月73%
 ・一人ひとりに合わせたかかわりを学ぶことができた
 肯定的評価 7月79%→2月92%

4-2-2 児童・障がい者・高齢者の共同学びの場活動

教育・社会貢献

幼児教育学科

課題及び目的

主にめいたんパークに参加する親子や学生が、核家族化が進む中で、ふれあう機会が減少している高齢者や障がい者への理解を深める場として「お互いを知る」機会を設けるとともに、地域の方々から本学の取り組みを知っていただき参加していただくことで、地域に根ざした大学として活動していることを地域の方々から知っていただくことを目的とする。

活動実施内容

- 平成28年11月29日、平成29年2月14日 地域の高齢者、未就園児、学生との交流「めーたんクッキング」を開催。
- 平成29年4月～3月 就労継続B型作業所による模擬店や手作りパン販売を通じた「障がい者と未就園児、学生、地域の方々とのふれあい」を実施。
- 平成29年12月、2月 高齢者施設2か所、幼稚園1か所、保育園1か所、認定こども園1か所の合計5か所を訪問し、パネルシアター、歌唱劇、合唱、手遊び等を披露。

詳細報告

「めーたんクッキング」

平成28年11月29日(火) 10:00～12:30

「さつまいもごはん」「さつまいもの味噌汁」「鶏肉とさつまいもの生姜煮」の調理を実施（地域の親子27名が参加）。



平成29年2月14日(火) 10:30～11:30

「やわらかココアクッキー」「パイナップルケーキ」「ぜんざい」の調理を実施（地域の親子27名が参加）。



J Aおちいまばり乃万女性部との連携・協力のもと、料理を通じた未就園児と高齢者との交流、および子育て中の保護者を交えての季節料理やデザート作りを実施した。料理後は試食会も実施し、会話を楽しみながらゆったりと触れ合う時間を設けた。

開催後にアンケートを実施した。アンケート結果をもとに、次回の料理メニューや調理可能な内容について検討していく。



- 4月～3月に今治市の就労支援事業所「すくらむハート」による手作りパンの販売を「めいたんパーク」において実施した。めいたんパークの開催日にあわせて、就労支援事業所「すくらむハート」の障がい者及び支援者の方が参加し、めいたんパークで地域の親子、学生がパンの販売を通じて障がい者の方々との交流の取り組みを続けている。
今後はこの交流をどのように広げていくかが課題である。



- 平成29年12月、2月 保育所、幼稚園、高齢者施設2か所など合計5か所を訪問した。絵本の読み聞かせや「はらぺこあおむし」のパネルシアター、「スーホの白い馬」の音楽劇などを披露した。どこの施設でも、利用者の方はじめ職員の方々にも歓迎していただき、学生は緊張しながらも練習の成果を発揮することができた。



成果

教育

学生は、高齢者施設への訪問やふれあい経験がなく、本実践が初めての体験学習となり、子どもへの対応における工夫や配慮と高齢者への対応についての留意点などを学ぶことができた。

社会貢献

子どもや地域の高齢者の方々と世代間交流を図る場をもつことができた。

今後の課題及び展開

教育

学生は、子どもと関わる専門職としての資格取得を目指しているが、高齢者や障がい者と関わりをもつことにより、関係構築を行っている。今後は、相互理解を深めていくための方法を学び、その学びを、学生の保育士養成にどのように活かしていくかが課題である。

社会貢献

障がい者との交流について実現し、子ども、高齢者、障がい者それぞれについての共に学び交流する場の実現について検討していく。

その他資料

平成29年1月9日 愛媛新聞掲載

今治明德短大生の子育て広場好評

未就園児と親対象 毎週開催 リピーター続々 父子参加も

遊び教え 学び実践



今治市矢田の今治明德短大で学生が未就園児と親を対象に毎週開いている子育て広場「めいたんパーク」が好評だ。学びの実践の場、親の情報交換の場として地域に根付きつつある。

パークは、同短大が2014年度から市と連携して「地域の課題解決に取り組んでいる文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」の一環で14年10月に開始。幼児教育学科2年生が児童館職員と共に、親子に季節の遊びや工作などを教えている。

「辛じるでリースを作りましょう」。16年12月13日、サンタクロースの帽子をかぶった学生に呼び掛けられ、親子約20組がテーブルに分かれて制作を始めた。学生11人は「ドングリを取りに行こう」と手を引いたり、リボンをはさみで切るのを手伝ったりして子どもと交流。親にも「かわいいデザインですね」などと語り掛けていた。

次女にかちゃん(3)とほぼ毎週訪れる市内の主婦堀崎育美さん(39)は「ほかのお母さんと会え、学生も子どもと遊んでくれて息抜きになる」とほほえむ。「子育て相談もできる」と市内を中心にリピーターが多く、父子での参加もある。

この日は一年の締めくくりにボールのゲームや手遊び、踊りなど約1時間の全プログラムを学生が企画、運営。終了後、学生は「みんな楽しんでくれた」と手応えを語る一方「つるの切れ端が散らばり、ごみ箱を置けばよかった」などと反省点を挙げた。織田舞子さん(20)は「お母さんたちに頑張ってもらった。0、3歳の発達度が比較でき、先生が子どもと接する姿が勉強になる」と話す。

同科の正岡節子准教授は「一人一人が役割を自覚し、いい環境をつくれた」と講師。「親とのコミュニケーション」が次第によくいった。経験を生かし、卒業後の現場でも子育てが楽しくなるような空間をつくってほしい」と期待を語った。

パークは毎週火曜日午前10時半から。次回は10日に「お正月遊び」を行う。問い合わせは同短大(知)の拠点整備事業推進室(電話0898(22)7366)。(亀井咲希)

平成29年2月3日 愛媛新聞掲載

幼児教育へ2年の集大成

今治明德短大 劇や歌を披露



今治明德短大(今治市矢田)の学生発表交歓会が1日、同市南宝来町1丁目の市総合福祉センターであり、幼児教育学科の2年生約40人が学舎の集大成として劇を披露し、地域の子どもと交流した。

2000年から毎年開催。学生は市内の幼稚園、保育所などの園児ら約500人を前に、1年間準備した桃太郎「白狐」、人魚絵本「くれよんのくろくん」を上演した。子どもたちは鬼と闘う桃太郎に「頑張れー」と応援を送り、学生の歌やダンスに合わせ体を動かすなどして熱中。国内外で流行したヒコ太郎さんの「PPPAP」をもじったシーンもあり、会場は爆笑に包まれた。

奥久保裕乃さん(22)は「子どもの反応が想像よりすごくてうれしかった。一人一人の個性を生かせる先生になりたい」と話していた。(亀井咲希)

学生発表交歓会で園児に劇を披露する今治明德短大生

4-3 福祉と障がいについての教育及び地域文化集積と伝承教育事業

4-3-1 『お接待』等の「ボランティア養成講座」開催

教育・社会貢献

ライフデザイン学科 介護福祉コース

課題及び目的

今治市の課題として、島しょ部での顕著な高齢化と障がい疾病・医療費の増大が挙げられている。ボランティア講座（介護教室）を開催し情報交換の場を設け、学生の活動を展開する。1年次に高齢者介護に関する講義を受講し、介護実習では一般市民と共同し交流を深める。このような講義や実習を通して、学生は高齢者介護やボランティア活動に関する意識を深めるとともに、基礎的な技術を学ぶ。次には、習得した技術を活かして、島四国へんろでお接待としての足浴を行う。

活動実施内容

- 平成28年4月16日(土) 島四国へんろ足浴ボランティア
- 平成28年5月21日(土)・22日(日) 吉海バラまつりボランティア
- 平成28年6月25日(土) ボランティア養成講座「センスコミュニケーション 旬の自然物と五感を結びつける絵画療法」を開講
- 平成28年11月12日(土) ボランティア養成講座「腰痛予防の考え方と基本的介護技術」を開講
- 平成28年11月26日(土) ボランティア養成講座「当たり前の暮らしを支える認知症ケア」を開講
- 平成28年12月4日(日) 元気フェスタ in 大島 めーたん健康いきいきブース出展

詳細報告

- 島四国へんろ足浴ボランティア

平成28年4月16日(土) 8:30~16:30 島四国79番札所 福蔵寺

足浴ボランティアは、介護福祉コースの先輩から受け継がれてきたボランティア活動の一つである。

島四国へんろを歩いて参拝しているおへんろさんへ足浴のお接待を実施。少しでも疲れをとっていただき、次の札所へと送り出していくためのおもてなしである。毎年足浴のお接待を楽しみにしている参拝者もいる。



- バラまつりボランティア

平成28年5月21日(土)・22日(日) 9:00~16:00

吉海町バラ公園 1・2年生 学生34名が参加

模擬店でボランティア活動を行った。

地域の伝統行事に触れることができた。地域の方々との交流で得た感動を、今後ボランティア活動に活かしていきたい。



- 平成28年6月25日(土) 13:00~16:00 今治明德短期大学 3号館
 大講義室・333教室

ボランティア養成講座ボランティア養成講座

「センスコミュニケーション旬の自然物と五感を結びつける絵画療法」を開講

講師：パンダアカデミー大津・アトリエパンダ代表

臨床美術士 半田育子先生

学生・一般48名

講演だけでなく、実際に身の回りにあるものを描く体験ができ、認知症の方々の五感を使いながら描く事で、記憶を呼び起こし、手助けとなっている。

指先の運動能力の維持、回復を目指し、作る楽しみや出来上がりの喜びを実感していくなど認知症予防のための絵画療法の理解を深める機会となった。

講演後のアンケートでは、「絵を描くのは苦手だったけど、楽しい時間がもてた。」「初めての体験で、我が家でもできる方法を考えたいと思った。」などの意見が寄せられた。



- 平成28年11月12日(土) 9:00~12:00 今治明德短期大学 3号館 大講義室
 13:00~16:00 今治明德短期大学 介護実習室

ボランティア養成講座「腰痛予防の考え方と基本的介護技術」を開講

講師：株式会社大起エンゼルヘルプ 理学療法士 田中義行先生

学生・一般52名

腰痛は、介護に現場で働く方々にとって、切り離せない悩みの一つである。

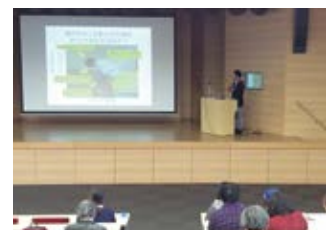
腰痛の原因は、仕事以外の普段の生活の中で起こっていることが多い。

腰痛を予防・軽減するには、

- ①仕事以外の場所でも介助者の腰痛予防・軽減ができる姿勢を身につける。
- ②利用者の能力を「適切」に引き出す介護技術を実践する。
- ③介助者が力を必要としない介助は、利用者にとっても負担のない動かし方を知る。

今回は腰痛を予防・軽減するための方法を、講義と実技の2部構成で、学生や介護現場に従事されている方々へご教授していただいた。

講義後のアンケートでは、「実技が大変わかりやすかった。職場で役に立ちます」「実際に利用者様に負担なく介助できるように見直しを行いたい」との意見があった。





- 平成28年11月26日(土) 14:00~17:00

今治明德短期大学 3号館 大講義室

ボランティア養成講座「当たり前の暮らしを支える認知症ケア」

講師：株式会社大起エンゼルヘルプ 取締役 通所・入居事業部

地域包括事業部部長 東京都地域密着型協議会 代表 和田行男先生
学生・一般62名



NHK『プロフェッショナル～仕事の流儀～』やEテレ『らくらくワンポイント介護』などに、テレビ出演の豊富な和田行男先生に「当たり前の暮らしを支える認知症ケア」と題して講演をいただきました。

介護現場で働く皆様方とともに、介護福祉士を目指す学生も参加しました。

認知症という状態にある方の側になって考えてみる。相手を理解できたら相手を受け止めることができ、受け止めることができれば支えることもできる。学生は、認知症についての理解を深める機会となった。

講義後のアンケートでは、「初心に戻ってがんばりたい」「人が人として生きられるように、当たり前のことが当たり前になる介護を続けたい」となどの意見があった。



- 平成28年12月4日(日) 8:30~15:30 今治市吉海学習交流館

今年度、実施している今治市島しょ部における地域診断の一環として、今治市社会福祉協議会吉海支部より依頼を受け“元気フェスタ in 大島”に参加した。

介護予防事業の展開にも寄与できた。学生は、サロン活動に助手として参加し、介護実践を経験することになった。



成果

教育

島四国へんろ市などの先人から受け継がれた活動に参加することで、継承していく大切さを学んだ。

ボランティアに参加することで、地域の方々との交流を図ることにより、地域の現状を把握することができた。

社会貢献

介護教室を年3回開催した。「絵画療法」、「介護技術」、「認知症」とそれぞれの分野の専門家のゲスト講師を迎えて、地域の方々に「知の共有」と「社会還元」へとつなげることができた。

今後の課題及び展開

教育

学生が地域住民とともに学ぶなかで、介護技術、コミュニケーション技術が自ずと体得できるような指導の手立ての構築が課題である。

社会貢献

今後も開かれた大学として、公開講座、介護教室を開催していくことが必要である。地域の介護に関するニーズを集積し、公開講座や介護教室の内容を充実させ、展開していくかが課題である。

4-3-2 島しょ部への地域開発構想

教育・社会貢献

ライフデザイン学科 介護福祉コース

課題及び目的

島しょ部（大島）では、島四国八十八カ所という貴重な文化があるが、後継者不足や高齢化による実施準備の苦労などの課題がある。またこのような文化保存、継承の面で今治市内での地域格差が大きい。本学の教育の一環として伝統の集積と保存を取り組むことを目的し、郷土の伝統と文化を継承するため、その集積と保存に取り組んでゆく。

活動実施内容

- 平成28年4月12日(火) 12:50~14:00 「島四国八十八カ所について」を開講。
しまなみ地域活性化推進協議会連合体 会長 矢野 都林先生
- 平成28年4月16日(土) 8:30~16:30 島四国へんろ体験
- 平成28年8月~3月 地域診断（介護予防健康教室）

詳細報告

- 平成28年4月12日(火) 12:50~14:30 331教室
「島四国八十八カ所」について
講師：しまなみ地域活性化推進協議会連合体 会長 矢野 都林先生
学生19名

4月12日(火)の講義では、島四国の歴史などの知識習得に加え、200年以上前からの善意で受け継がれているおもてなしの心に触れ、福祉理念の学びの場となった。介護福祉の仕事を目指す学生にとって大切な思いやる気持ちを再認識した。

4月16日(土)おへんろのお参りの仕方など情報収集ができた。



- 平成28年4月16日(土) 8:30~16:30 吉海町札所
4月15・16・17日と3日間開催されるへんろ市。
吉海町 44番札所~71番札所 介護福祉コース1・2年生 44名 参加
今年度は4月16日(土)に歩きへんろに参加

大島の住民が200年以上もの間、大切に守り、受け継ぎ、伝えてきた“お接待の心”を実際に歩いて体験をした。途中、その札所ごとでは、お接待がいろいろと用意され、お世話をして下さっている地元の住民の方々との交流も深まった。





• 平成28年10月～3月 鳥しょ部の地域診断

大島での地域診断。今治市社会福祉協議会吉海支部および宮窪支部のご協力のもと、地域のサロン活動に参加している高齢者の方々との交流を深め、介護予防となりうる健康教室を開講した。

10月12日(水) 13:00～14:00 宮窪町 戸代集会所
 サロン活動「あじさい」の皆様13名

宮窪地区では、サロン活動「あじさい」の皆様とともに、深呼吸、軽めの体操を行い、介護予防に関する相談にも対応をした。



8月～3月

10月18日(火) 13:00～15:00 吉海老人福祉センター
 吉海町の高齢者の皆様 9名他

吉海老人福祉センターでは、10月から月1回のペースで10数名の高齢者の方々とともに、深呼吸から始まり、スクワットや指の体操、肩回しなどの肩や腰の症状を和らげ、体をほぐしていく健康教室を実施した。その後、個別に、日々の体の部位の痛みなどについて予防方法を話すなどの相談を行った。

学生も同行し、介護実習の場となっている。卒業後の介護福祉士として高齢者の関わりをもつ学生にとって、貴重な体験であった。



成果

教育

学生たちは、先輩から受け継がれた活動に参加することで、継承していく大切さを学び、お接待を通して地域の方と交流を図るとともに、地域の現状を知ることができた。

介護福祉士を目指す学生にとっては、参加者の生活課題の意識の把握が可能になった。高齢者との交流をもつことで、コミュニケーション力を高めることができ、日頃の介護技術を実践する場として活かすことができた。

サロン活動等にスタッフとして参加することで、利用者との円滑なコミュニケーションをとるための工夫を学生自身が行うことができた。平常時の授業では見ることが困難な教員の実践を見ることができ、実践する際の技法等についても実地指導することができた。

社会貢献

大島 吉海地区で健康教室を開催し、島民の方々の介護予防の一翼を担うことができた。

健康教室を開催していく中で、島しょ部にある NPO しまなみ活性化推進協議会連合体と連携協定書を締結する計画の話もあり、しまなみ海道沿線の島々で健康教室を含めた島しょ部の活性化の協力体制を構築することができた。

サロン活動に平成28年9月より参加し、健康教室を実施している。健康教室では、首部、肩部、背部、腰部、および大腿部のストレッチを主に行った。サロン活動の延長で“元気フェスタ in 大島”にも参加し、健康教室を開催した。健康教室で行なっているストレッチ・体操で肩関節可動域が拡大した利用者もおり一定の効果が現れている。また、平常時から体操をすることの意義についても伝えることができしており、健康教室開催時以外にも利用者自身でストレッチ・体操をする習慣ができるようになっており、介護予防、減介護、脱介護への足がかりとなっていると言える。

今後の課題及び展開

教育

介護予防にアプローチが必要な対象者のモチベーションの向上を図ることと、また、学生が自発的に行動できることが課題である。

介護福祉士養成カリキュラムが非常に過密であるため、課外で取り組むことが非常に困難である。そのため、実施されているカリキュラムの中で、より一層、地域での活動を意識し、地域をフィールドとした教育活動を検討していく必要がある。また、地域特性をより深く学ぶためにも、地域で活躍する専門職との連携が必要となってくる。

社会貢献

健康教室は、今治市社会福祉協議会吉海支部との協働作業で実施している。今後は、関係団体も含めて連携を深めて活動を実施していきたい。また、地域資源である、他の介護福祉サービスを提供している施設・法人とも連携し、地域の健康増進を図っていく必要がある。

地域で行われているサロン参加者の多くは後期高齢者であり、90代以上の利用者も少なくない。一方、前期高齢者は比較的健康的であるため、身の回りの支援が必要な方はほとんどいない。そのため、介護予防に関して積極的な関わりはされていない。しかしながら、前期高齢者への介護予防に関する啓発活動が、体力低下を未然に防ぐ活動として重要であると考えられ、前期高齢者へ健康教室参加を促すことが大きな課題と言える。

4-4 調理・製菓技能教育及び特産品開発支援と講習事業

4-4-1 「特産品開発講習会」活動

教育・社会貢献

ライフデザイン学科製菓製パンコース・調理師専修科

課題及び目的

当地の特産品である柑橘類は、加工品としての利用度が必ずしも高いとはいえない。市内の生産者による柑橘類（いよかん）を製菓製パンに利用する実習を行い、地場産品を活用する創作力を養う。また地場産品を利用した製菓・調理のレシピ公開と試作品の評価を通し、特産品の付加価値形成のための研究開発を行う。

活動実施内容

- 平成28年8月27日(土) 「地産地消！身近な食材活用法」 9：30～14：00

詳細報告

- 平成28年8月27日(土) 9：30～14：00 調理実習室
「地産地消！身近な食材活用法」 今治市食生活改善推進員・健康推進課20名

地産地消における身近な食材を使用した料理教室を実施。「野菜のフォカッチャ」「若鶏のカチャトーラ（猟師風）」「地元のフルーツを使ったジュレ」を調理した。料理のバリエーション、簡単アレンジや味の展開などを紹介した。試作中にいくつか質問が挙がり、活気に満ちた時間であった。



成果

教育

学生が料理指導に参加し、世代間交流を図ることができた。日頃授業で学んでいる調理基礎技術の重要性を認識した。

社会貢献

今治市食生活改善推進員対象の料理講習会を開催した。市民講座等において、本講座でのレシピを活用していただけるようにレシピ提供を行った。

今後の課題及び展開

教育

より高い調理技術の習得を目指し、指導能力の向上を図る。

社会貢献

学生が料理指導に参加して世代間交流ができたが、今後より高いコミュニケーション能力の必要性を感じる。

4-4-2 「家族の料理、菓子教室」活動

教育・社会貢献

ライフデザイン学科製菓製パンコース・調理師専修科

課題及び目的

今治市は地産地消が盛んな地域である。また、食育の分野でも積極的な活動が目立つが、行事食などの食文化・食習慣への教育ならびに普及が課題となっている。地域の一員としての意識を高め、料理を通じて食文化への理解を深めながら、調理技術の向上と郷土料理の継承を行う。

活動実施内容

- 平成28年7月21日(木) 8:50~16:00
地域の料理継承 料理講習
- 平成28年12月11日(日) 「家族の料理、菓子教室」 9:30~13:00
「めーたん de サンタクロース」(パン)
- 平成28年12月2日(金) 高齢者が喜ぶお弁当試食調査 12:00~14:00
今治市乃万公民館 乃万ドリームグランドゴルフ

詳細報告

- 平成28年7月21日(木) 8:50~16:00 調理実習室
地域の料理伝承 料理講習 学生19名

家庭で作り続けている伝統の味を再現した献立で、焼き穴子をベースに作った「ちらし寿司」「きゅうりの酢の物」小魚で作った「クリ身の澄まし汁」「いぎす豆腐」「かしわ餅」の5品を地元のゲスト講師から教えていただいた。

近年、親から子へと継承される郷土料理が少なくなっている。料理はお姑さんや親から教わったというお話を伺うことから、郷土料理継承の大切さを改めて考えるきっかけとなった。



- 平成28年12月11日(日) 9:30~13:00 製菓実習室
「めーたん de サンタクロース (パン)」 9組18名の親子が参加

冬の風物詩「クリスマス」、今年は「サンタクロース」のキャラクターパン作りに親子9組が挑戦した。

先生サンタと学生が子どもたちに作り方のコツをアドバイス。興味津々で覗き込む様子が印象的であった。家でも作ってみたいという希望が多く、レシピ提供を行った。



- 平成28年12月6日(火) 12:00~14:00 今治市乃万公民館
高齢者が喜ぶお弁当試食会 乃万ドリームグランドゴルフ会員20名、学生19名
「高齢者が食べやすいお弁当(介護食)」試食調査を行った。地元の乃万ドリームグランドゴルフ会員とゲームを通して交流を深めた。なごやかな雰囲気の中でお弁当を試食していただき、併せてアンケート調査を実施した。



成果

教育

調理する時間を共有し、料理継承交流の足がかりを築くことができた。
学生は講師役や助手をすることで、授業では学べない経験や交流から食の楽しさを学び取った。

社会貢献

高齢者の嗜好や食事情などを各自研究して献立に活かし、今後の活動につなぐことができた。

今後の課題及び展開

教育

郷土料理は若い学生にとってはあまり馴染みのない料理であるが、交流しつつ自ら作ることで味覚の領域を広げ、さらに深めていく。

学生は指導する難しさを知り、より高い製菓技術習得や知識を得たいという意欲が見られたので、その気づきを形にしていきたい。

社会貢献

アンケート結果を元に、高齢者の嗜好に合わせたメニュー作りに取り組みたい。

4-5 食育及び健康栄養教育事業

4-5-1 「子供を対象とした食育講座」開催

教育・社会貢献

ライフデザイン学科 食物栄養コース

課題及び目的

現在、生活習慣病や慢性疾患がすべての世代で広がっている。生涯にわたって健康であるためには、バランスのとれた食生活を送らなければならない。そのためには、幼児期から食育を推進していく必要がある。日常の生活や遊びの中で、食についての理解を促す媒体（教材）を作製し、園や施設に寄贈し、日常的に活用してもらう。また、実際に園児に食育指導を行うことで、あわせて、学生の食育指導力の向上を図る。

活動実施内容

- 平成28年7月19日(火) 8:50~12:00 今治市乃万保育所
子供を対象とした食育講座を実施
- 平成28年度後期(10月~2月)
食育紙芝居を作製、めいたんパークで実演、福祉施設(保育園や児童館等)へ寄贈
- 平成28年11月13日(日) 10:00~15:00 片原大型フェリー駐車場
JA おちいまばり第18回農業まつり・第11回漁業まつり
- 平成28年11月13日(日) 8:00~16:00 今治市総合福祉センター 愛らんど今治
第18回今治市総合福祉センターまつり
- 平成29年1月15日(日) 10:00~15:00 JA 越智今治 大西宮農生活センター
2017大西町農業まつり
- 平成29年3月21日(火) 10:30~11:00 めいたんパーク本学3号館大講義室
食育紙芝居「元気になあれ」の実演

詳細報告

- 平成28年7月19日(火) 8:50~12:00 今治市乃万保育所
「子供を対象とした食育講座」
保育園児を対象に、学生が「食育講座」を開講。
「人形劇」、「クイズ」、「体操」、を発表した。
学生が普段の食事の大切さについて体験発表することにより、食育とは何かを学生自身が理解する。あわせて保育園児との交流を図った。
- 平成28年度後期(10月~2月) 食育紙芝居を作製
『栄養指導論実習』において、食の大切さや地産地消を推進する内容の食育紙芝居を作製した。
紙芝居では、食物がもつ力や色によって体内で、それぞれの働きがあることを子ども達が理解できるように、短い文にした。子どもた



ちに喜んでもらえるように、興味を持ってもらえるよう工夫した。

幼児教育学科の活動のひとつであるめいたんパークに参加している子ども達に食育紙芝居「元気になあれ」を実演した。

- 平成28年11月13日(日) 10:00~15:00 片原大型フェリー駐車場
JA おちいまばり第18回農業まつり・第11回漁業まつり
- 平成28年11月13日(日) 8:00~16:00 今治市総合福祉センター 愛らんど今治
第18回今治市総合福祉センターまつり
- 平成29年1月15日(日) 10:00~15:00 JA 越智今治 大西営農生活センター
2017大西町農業まつり

農業まつりでは、栄養指導教育媒体の展示のほか、食育カルタ遊びを体験できるコーナーを設けた。子どもたちは、食育カルタに一生懸命に取り組んでいた。

子どもたちとゲームを通してスムーズに話をする事ができて、とてもいい経験になった。

- 平成29年3月21日(火) 10:30 めいたんパーク本学3号館大講義室
幼児教育学科の活動のひとつであるめいたんパークに参加している子ども達に、食育紙芝居「元気になあれ」を実演した。

成果

教育

めいたんパークや保育所等で「食育劇」を発表することができた。園児と遊び、交流を図ることができた。紙芝居などの指導教材を作成する過程で食育の大切さを学び、子ども達にどのように伝えればよいか学生自身で考えることができた。

社会貢献

「食育講座」として、保育園児を対象に学生が、「紙芝居」、「クイズ」、「体操」などを組み合わせた「食育劇」を発表することができた。

今後の課題及び展開

教育

普段の保育所生活では得られにくい内容「食育劇」を園児に楽しんでもらうための工夫が必要である。幼児教育学科と連携を図り、「食育劇」等の食育教育媒体の製作にあたっては協働する体制の構築が必要である。

社会貢献

子どもたちは食育カルタをたくさん取ることに夢中になり、読み札や絵札の内容がどこまで印象に残ったのか、また伝えられたのかを考えさせられた。子どもたちの発達段階を考慮して、わかりやすい言葉や表現方法による食育教育媒体の製作を考案していきたい。

4-5-2 「中高年対象の栄養・健康講座」開催

教育・社会貢献

ライフデザイン学科 食物栄養コース

課題及び目的

生活習慣病や慢性疾患がすべての世代で広がっており、それらを予防あるいは改善するための食生活指導を効果的に行える人材の育成が必要である。

地域の農業まつりや福祉まつりにおいて、健康・栄養チェック機器を用いて栄養指導を行うことで、食生活改善のきっかけを提供する。

活動実施内容

『栄養指導論実習』および『コースセミナー』において健康チェック機器やSATシステムを用いた体験指導を実施した。

- 平成28年5月23日(火) SATシステムを活用した栄養指導の進め方
- 平成28年10月16日(日) 健康塾で栄養指導体験
- 平成28年12月10日(土) 健康塾で栄養指導体験
- 平成28年11月13日(日) JA おちいまばり第17回農業まつり・第9回漁業まつり
- 平成28年11月13日(日) 第18回今治市総合福祉センターまつり
- 平成28年12月4日(日) 元気フェスタ in 大島
- 平成29年1月15日(日) 2017大西町農業まつり

詳細報告

SATシステム

- 平成28年5月23日(月) 14:30~16:00

「SATシステムを活用した栄養指導の進め方」

愛媛大学農学部生物資源学科講師 垣原 登志子氏

食育SATシステムの運用・利便性、また機器の具体的な取り扱いについて学んだ。SATシステムの学生の興味関心は高く、今後の栄養指導の学びに弾みがつく内容であった。



健康チェック体験指導

- 平成28年10月16日(日) 12:45~15:30 松岡健康塾

健康塾で栄養指導体験(個別指導)

松岡健康教室塾長、松岡道子氏の講演を聴講した後、講師の指導のもと栄養指導を体験した。その後、講師を交え栄養指導について意見交換を行った。

- 平成28年12月10日(土) 12:45~15:30 松岡健康塾

健康塾で栄養指導体験(集団指導)

「NEW！！和食」・「認知症予防のための生活習慣」・「めざせ“脳年齢-10歳”-脳トレ-」・「サルコペニアシンドローム予防のための運動」をテーマにして、栄養指導を体験した。



- 平成28年11月13日(日) 10:00~15:00 今治市総合福祉センター 愛らんど今治
 第18回今治市福祉センターまつり

栄養チェック（健康チェック機器：骨密度計、SAT システムを活用）

来場の希望者に対し、健康チェックを行った。測定結果をもとに身体の現状を説明した。

具体的な食事の量や質、食べ物の組み合わせについての理解が不十分な方が多く、正しい栄養情報の提供の必要性を実感した。



- 平成28年12月4日(日) 8:30~15:30 元気フェスタ in 大島 今治市吉海学習交流館

今治市社会福祉協議会（吉海支部・宮窪支部）の協力により、介護福祉コースと連携しながら、SAT システムや骨密度計などの健康測定機器を使って栄養指導を実施した。

島しょ部の高齢者の方々には、実生活に基づいた栄養指導や様々な情報提供可能となり、食生活を見直すきっかけとなった。学生は、相手の話を傾聴し、理解度に合わせて指導方法やアドバイスを考え、日頃学んでいる理論を実践することができた。



- 平成29年1月15日(日) 10:00~15:00 JA 越智今治 大西営農生活センター
 2017大西町農業まつり

来場の希望者に対して、骨密度測定や体脂肪測定、食生活の現状を聴取し、それらをふまえた栄養指導を行った。



成果

教育

ゲスト講師による講義では、学生、教員がSATシステムの活用法と機器の操作方法について学ぶことができた。高齢者対象の個別指導や集団指導の体験では、高齢者と親和的に関わり、コミュニケーション経験を深め視野を広げることができた。

社会貢献

来場者に、骨密度測定などの結果から食事の問題点を伝えることができた。本学の活動の一端を知ってもらうことができた。福祉センターまつりでは、愛媛県栄養士会今治支部の方々の栄養指導を間近で見ることができ、実際の栄養士業務を学ぶことができた。

今後の課題及び展開

教育

栄養に関する「知識」、「技術」、「経験」が不足していることを学生自身が自覚し、今後の授業やボランティア活動に積極性をもつための促しが必要である。

社会貢献

学生は、実際の食事のメニューを来場者に聞きながら栄養チェックを行っているが、経験不足のためマニュアル通りの説明になってしまいがちである。説明にあたっては、マニュアル以外の説明が不十分であり、資料配布等でより分かりやすい指導を目指したい。

4-6 ライフデザイン学科 国際観光ビジネスコース

社会貢献

課題及び目的

サイクリングロード整備や外国人観光客へのガイド、清掃活動などへのボランティアに参加し、地域文化の伝承とおもてなしの精神を学び、地域の方々との交流を深める。

交流人口の拡大が課題になっている中で、地域の団体、構成員の方々と連携しながら固有の観光資源やその活用方策について学び、具体的な実施に向けてボランティア参加を行う。

活動実施内容

- 平成28年4月23日(土) 10:00~15:00 「半島四国八十八カ所へんろ歩き体験」
- 平成28年12月5日(月) 14:30~15:30 「サイクリングについて」
講師：特定非営利活動法人シクロツーリズムしまなみ 代表理事 山本 優子先生
- 平成28年12月10日(土) 吉海町バラ公園周辺清掃ボランティア

詳細報告

- 平成28年4月23日(土) 10:00~15:00 「半島四国八十八カ所へんろ歩き体験」

国際ビジネスコースの留学生は、日本人学生とともに半島四国八十八ヶ所波方霊場巡りに参加し、12キロを完歩した。札所では、それぞれお接待のおもてなしを受け、留学生は、日本のおもてなしの文化に触れることができた。



- 平成28年12月5日(月) 14:30~15:30

しまなみ海道のサイクリストの利用者の推移や目的についてサイクリングの現状について、講話をしていただいた。

- 平成28年12月10日(土)

今年度は、サンライズ糸山から吉海町バラ公園までサイクリングをしながら清掃活動を行った。

公園内は落ち葉がとて多く、用意していたゴミ袋はすぐにいっぱいになった。

ボランティアに参加することにより、留学生は日本の「おもてなし」の文化を学び、地域の人々との交流も生まれた。



成果

半島四国歩きへんろでは、地域の方々との交流ができ、サイクリングでのボランティア活動では、地域の観光名所を学びながら、環境整備に取り組むことができた。

今後の課題及び展開

外国人の目線から地域の観光名所を学ぶだけでなく、それを活かしさらに外国人観光客に伝える活動に拡大するよう計画する。

4-7 大学公開講座

社会貢献

課題及び目的

市民生涯学習の機会を提供するため、大学主催の公開講座を開催。今年度は、「地域と大学～地域と共に～」をテーマにして、文化、産業、福祉などの切り口から地域を見つめ、将来の展望を考えるというコンセプトで開講した。

活動実施内容

大学公開講座の開催は、今年度で36回目である。本学が主催し、今治市の共催を得て開講された。8つの講座が開講され、参加者は延べにして、484名であった。

詳細報告

回	開講日	講座名	講師名(敬称略)
1	7月2日	世界に誇れる日本料理は今治から	料理研究家・本学非常勤職員 近藤 一樹
2	7月9日	絵本を楽しむ 絵本でつながる	今治明德短期大学 幼児教育学科 准教授 玉井 智子
3	7月23日	The Art of Caring	今治明德短期大学 ライフデザイン学科 講師 野方 円
4	7月30日	FC 今治は地域とともに	株式会社今治・夢スポーツ FC今治 取締役社長 矢野 将文
5	9月3日	ぼくらが演劇から学んだいくつものこと	あかがねミュージアム プロジェクトマネジャー 山本 清文
6	9月10日	日本のことばと多言語翻訳の世界	オムニテックジャパン株式会社 代表取締役社長 ウェス・じゃん=まーく
7	9月17日	仲間づくりからはじまるまちづくり	株式会社渡辺建設 代表取締役社長 おんまくイベント部会長 渡辺 俊
8	9月25日	自分の町への気づき	FMラヂオバリバリ 代表取締役社長 黒田 周子

成果

受講後のアンケート調査については、全体平均で、「良かった」「非常に良かった」と回答する方が、8割以上であった。COC事業の目標である今治市との大学公開講座の強化やオープンカレッジ・公開講座の展開という目標に向かって推進することができた。

今後の課題及び展開

今治市の広報誌や地域の公民館等、本学ホームページで講座開催の周知をしている。受講後のアンケート調査の中には今治市の広報誌以外の周知の方法についても検討してほしいとの要望があった。今後の周知活動についても強化する必要がある。

4-8 シンポジウム

4-8-1 地（知）の拠点整備事業（COC 事業）シンポジウム

社会貢献

課題及び目的

4事業10活動及び「地域交流実践演習」のCOC事業活動展開を行っている。そのうち、「子育て支援の地（場）の提供」の地域課題については、ふれあいの場（地域の子育て広場）活動、共同学びの場活動である「めいたんパーク」を今治市健康福祉部子育て支援課と連携し開催している。

本シンポジウムでは、「大学における地域の子育て広場活動の展開」をテーマに掲げ、今後、継続可能な地域子育て支援を目指して地域の方々とともに考えていきたい。

活動実施内容

平成28年12月10日(土) 13:30～16:00

今治明德短期大学 COC 事業シンポジウム 大学における地域の子育て広場活動の展開
～継続可能な地域の子育て支援を目指して～

第1部 基調講演

第2部 地域の子育て広場「めいたんパーク」活動報告

詳細報告

平成28年12月10日(土) 13:30～16:00 大講義室

第1部 基調講演

COC事業「きょう育の和」における子育て支援事業の取り組み
和歌山信愛女子短期大学 保育科 准教授

きょう育の和副センター長 森下 順子

平成25年度よりCOC事業に取り組み、自治体との連携を図る体制作りを構築した。

和歌山市より保育士2名の派遣により、『ふれ愛ルーム木のおうち』、『子育て広場』を実施している。大学の知識や研究成果を地域に発信し、様々な人との交流を通して、この取り組みが、継続・発展していくために、出会った方々と共に力を合わせていきたい。



第2部

①地（知）の拠点整備事業（COC 事業）概要説明

地（知）の拠点整備事業推進室 室長 野方 円

②地域の子育て広場「めいたんパーク」のねらい

幼児教育学科 准教授 正岡節子

めいたんパークは『大学でおこなう地域の子育て広場』で、参加した親子、学生と一緒に楽しみながら共に学び合うことを目的としている。

③今治市における子育て支援活動の取り組み

今治市 健康福祉部 子育て支援課 課長補佐 渡邊美樹子

みんなで育つ・育てるあした（次世代）の今治へを基本理念のもと、子育て環境、子どもが育つ環境、子育て、子育てを支えるまちづくりを基本的な視点と捉え、様々な子育て支援事業を展開している。



④主任児童委員の子育て支援活動の取り組み

今治市民生児童委員協議会 主任児童委員 野崎 幸子
民生委員・主任児童委員の活動として、少子化、核家族化が進み、産後うつ、児童虐待などの問題が多発している。そのため、子育て中の母親の不安や負担の軽減を考慮し、各校区の概ね4か月未満の赤ちゃん宅を訪問する「こんにちは赤ちゃん事業」を実施している。



⑤地域の子育て広場「めいたんパーク」活動報告

・「学生の教育」

幼児教育学科 准教授 寺川 夫央

幼児教育学科では、「総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業の中で、「めいたんパーク」を通して、1年次前期、「見て学ぶ」・1年次後期「参加して学ぶ」・2年次「計画・実践して学ぶ」とステップアップしながら、専門知識を踏まえて、実践力を身につけている。



・「実践からの学び」

幼児教育学科 2年 徳永 萌子

通常の授業とは異なり、保育者の保護者への関わりや親同士のつながり、地域とのつながり、保護者へのサポートの仕方など実践的な事を学ぶことができた。



・「社会貢献」

幼児教育学科 准教授 正岡 節子

「めいたんパーク」を通して、保育の資質向上に貢献できる保育者を育成していくことを目標に取り組んでいる。また、めいたんパークの担当者会議、今治市との連携を図った、「めいたんパーク運営協議会」・「連携協議会」などを開催し、成果・課題などの情報共有を行い、次年度の活動に反映している。



成果

150名以上の来場者があり、地域の子育て広場「めいたんパーク」の活動について、周知ができた。また、行政はもとより、主任児童委員などの地域の子育て支援のつながりづくりもできた。

和歌山信愛女子短期大学の子育て支援の取り組みを知ることができ、COC事業を採択する大学との交流も図られた。

今後の課題及び展開

今後、継続的に地域での子育て支援活動を展開していくためには、行政、地域との連携をさらに深めていくことが必要になる。

その他資料

シンポジウムの感想やご意見等、ご自由にお書きください。(一部抜粋)

- COC 事業について、わかりやすく説明をいただきありがとうございます。
- 学生の発表や保護者のコメントを取り入れているのが良かった。
- 他方面から、また専門職への交流など良くわかりました。地域に発信して、もっとしてもらえ、参加できる親子が増えると安心ですね。
- 他県の状況もわかり、勉強になった。これからの子どもたちが豊かに育つように遊び場を提供してほしい。
- 様々な先生の話を書くことができ、勉強になった。連携の大切さを学んだ。色々な取組があることは素敵なことだと思った。
- 両大学のCOC事業の取り組みの内容及び行政(市役所)の様々な取り組みなど理解できたが、現状課題及び課題解決に向けた方向性などの説明があればさらに良かったと思います。

大学における地域子育てで広場活動の展開に向けて、ご意見または期待すること等ありましたらご自由にお書きください。(一部抜粋)

- 子育て支援の地域の拠点となる大学になるため、努力されている事が素晴らしい。これからも大いに頑張ってください。
- 「めいたんパーク」の時間帯に、現場の保育士も参加できると生徒、母子にもいいのではないかと感じました。
- 保護者や乳児との直接関わりが多く持て、理解しあえたりするために、良いことだと思います。今後、保育士になられる方に期待しています。保育所に就職してね。
- 今治市と連携を十分に持ち、保健婦さんとの交流をもっと、もっと向上するのではないかと思います。
- 地域の子育てにも非常に大事なことですが、学生さんが多くの現場を体験することが重要なことだと考える。学生さんの学びの場として十分活用されることを期待します。

地(知)の拠点
今治明德短期大学 COC事業シンポジウム

大学における地域の子育て広場活動の展開 ～継続可能な地域の子育て支援を目指して～

第1部 ● 13:30～14:30
基調講演
COC事業「きょう育の和」における子育て支援事業の取り組み
和歌山信愛女子短期大学 保育科 准教授
きょう育の和 副センター長 森下 聡子

第2部 ● 14:45～16:00
地域の子育て広場「めいたんパーク」活動報告
★プログラムの詳細は裏面をご覧ください。

平成28年
12/10(土)
13:30～16:00
(受付13:00～)

会場 今治明德短期大学
3号館1F 大講義室

定員 200名
申込不要・参加費無料

imjc 今治明德短期大学
地(知)の拠点整備事業推進室

〒794-0073 愛媛県今治市矢田甲688番地
TEL.0898-22-7366 FAX.0898-22-7857
info@meitan.ac.jp

プログラム シンポジウム開催中(13:00～16:00)
『学生によるポスター展示』開催
詳細をご覧ください。

13:30～13:40 開会
開会挨拶 今治明德短期大学 学長 野口 学
来賓挨拶 今治市長 菅 健二

13:40～14:30 基調講演
COC事業「きょう育の和」における子育て支援事業の取り組み
和歌山信愛女子短期大学 保育科 准教授
きょう育の和 副センター長 森下 聡子

14:30～14:45 休憩
めいたんパークの様子★スライドショー

14:45～15:55 地域の子育て広場「めいたんパーク」活動報告

- (基調) COC事業の説明
今治明德短期大学 地(知)の拠点整備事業推進室 副室長 野口 学
- (基調) 地域の子育て広場「めいたんパーク」のねらい
今治明德短期大学 幼児教育学科 准教授 正岡 節子
- (行状) 今治市における子育て支援活動の取り組み
今治市 健康福祉部 子育て支援課 課長補助 渡邊 美穂子
- (地域の拠点) 主任児童委員の子育て支援活動の取り組み
今治市民生児童委員協議会 主任児童委員 野崎 幸子
- (地域の拠点) 地域の子育て広場「めいたんパーク」活動報告
・「社会貢献」 今治明德短期大学 幼児教育学科 准教授 正岡 節子
・「子育て真っ最中のママたちの声」 めいたんパーク参加者(ヒナオ渡辺)
・「学生の教育」 今治明德短期大学 幼児教育学科 准教授 寺川 未央
・「実践からの学び」 今治明德短期大学 幼児教育学科学生
- 質疑応答
和歌山信愛女子短期大学 保育科 准教授
きょう育の和 副センター長 森下 聡子
- コメント

15:55～16:00 閉会
閉会挨拶 今治明德短期大学 副学長
地(知)の拠点整備事業推進室 室長 西本 徳文

ACCESS
JR 松山 駅 → 今治線 彦根駅(徒歩約15分) → 徒歩約4分
新居浜 駅 → 今治線 彦根駅(徒歩約15分) → 徒歩約3分
バス 新居浜 駅 → 今治線 彦根駅(徒歩約15分) → 徒歩約3分
松山 駅 → 今治線 彦根駅(徒歩約15分) → 徒歩約4分
新居浜 駅 → 今治線 彦根駅(徒歩約15分) → 徒歩約3分

※ 本シンポジウムは、雨天決行です。当日の天候により、会場を変更する場合があります。詳しくは当日の告知をご覧ください。

4-8-2 文部科学省「地（知）の拠点大学による地域創生推進事業」 COC / COC+ 全国シンポジウム

活動実施内容

平成29年3月6日(月) 12:35~18:10 ザ クラウンパレス新阪急高知「花の間」

基調講演 「地方から創生する我が国の未来」

衆議院議員（前地方創生担当大臣）石破 茂氏

基調講演 「日本の課題－デフレ脱却と地方創生－（コマツは日本の縮図）」

小松製作所 相談役 坂根 正弘氏

基調討論 「先進技術と地方創生」

ポスターセッション

情報交換会

平成29年3月7日(火) 9:00~13:30

事例報告

COC/COC+ ランチョンミーティング

詳細報告

平成29年3月6日(月) 12:35~18:10

基調講演 「地方から創生する我が国の未来」

衆議院議員（前地方創生担当大臣）石破 茂氏

基調講演 「日本の課題－デフレ脱却と地方創生－（コマツは日本の縮図）」

小松製作所 相談役 坂根 正弘氏

基調討論 「先進技術と地方創生」

ポスターセッション

情報交換会

平成29年3月7日(火) 9:00~12:00

下記の大学より事業活動の報告があった。

- ・富山県立大学
- ・宮崎大学
- ・岐阜大学
- ・高知大学

COC+ ランチョンミーティング

本事業における COC 事業を客観的に捉えることができた。

今回は、各大学での地域協働型の教育実践事例についても参考になる話を聞くことができた。教員としてできることは、COC 事業のねらいの一つである教育改革に向けて、学生が主体的に学ぶためのしかけを創っていくことだと思う。

地域交流実践演習はもとより、他の授業においてもアクティブ・ラーニングの視点を忘れずに実践していきたい。

4-9 研究

4-9-1 「地域の子育て広場」活動参画による学生の学び － COC 事業での「ふれあいの場事業」(めいたんパーク)を通して－

学科名：幼児教育学科

教 員：寺川 夫央・正岡 節子・松田 ちから・玉井 智子・相澤 みゆき

課題・目的

本学は今治市との連携により、「地域の子育て広場」(通称、めいたんパーク)を開催している。親子が安心して集まることができ、親子で楽しく遊びながら子ども同士、保護者同士の交流ができる「ふれあいの場」を設定することである。また、今治市の地域課題に挙げられている「親子が安心して集まれる公園等や施設の整備」というニーズに対応するものである。

平成27年度からめいたんパークの活動を在学2年間にわたり開講される必修科目「総合演習」の中に組み込み、保育者を目指す学生が継続的に参加できるようにした。それに伴い「総合演習」を本学の地域志向科目に位置づけ、地域に貢献できる保育者の養成という当該科目の目的をより明確にしている。学生は、今治市児童館職員が企画した遊びのプログラムに直に関わる経験を通して、グループで協力しながら企画・運営を主体的に担い、学習成果を実践する。参加親子への実践的な関わりを通して、コミュニケーション力を向上させる。これらの過程を通して、保育実践力を身につけ、親子と共に成長できる保育者、地域に根ざし地域に貢献できる保育者を人材していく。

実施内容

平成28年度、年間38回開催された「めいたんパーク」参画における学び

グループでの計画・実践・振り返りを通じた学生の意識の変化

詳細報告

平成28年度、年間38回開催された「めいたんパーク」に2年次の学生を中心に概ねグループが、ローテーションで参加する方法をとっている。「めいたんパーク」活動への参画を通して学生にどのような学びがあるのか、前期、後期終了時に「めいたんパークへの取組意識」、「めいたんパークでの学の達成度」、「観点別の学びの自由記述」についての調査を実施した。(詳しい内容は研究紀要にて掲載)

成果

学生は2年間の学びの中で、特に子どもへの主体的な関わり、自分自身の子育て支援に関する専門性、安全で安心して過ごせる環境づくりについて学びを深めていることがわかった。児童館職員が提供する手遊びや当日のプログラムへの導入方法を現場で直接学ぶことができた結果であると考えられる。

今後の課題と展望

めいたんパーク、「総合演習」での学びは、本学幼児教育学科での統合的な学びであるが、カリキュラムにおける科目間のつながり、学びが統合されていく過程を可視化することが今後の課題である。「地域に貢献できる、コミュニケーション力、保育実践力をもった親子と共に成長できる保育者」の養成に向けた学生の学びをさらに検証していきたい。(詳しい内容は研究紀要にて掲載)

5 今治市連携協議会



imjc
IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

6 第三者評価委員会



imjc
IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

6-1 第三者評価委員会

設置目的：本学における「今治明德短期大学 地（知）の拠点整備事業」の合理性・健全性の維持向上及び同事業の質的改善・改革の持続的確保を実現するため、今治明德短期大学 COC 第三者評価委員会を設置する。

役割：評価委員会は、本学の建学の精神に照らし、事業を評価し、必要な提言を行う。

1. 日 時 平成29年 3月23日(木) 午前10時00分 開会
午前11時30分 閉会
2. 場 所 今治明德短期大学 2F 大会議室

「平成28年度 今治明德短期大学 地（知）の拠点整備事業 事業報告」について

3. 出席者

外部評価委員 6名

社会福祉法人 今治市社会福祉協議会会長 片上 修二郎委員
今治市商工会議所 常勤参与 高須 泰裕委員
今治 NPO サポートセンター事務局長 山本 優子委員
今治市民生児童委員協議会副会長 小山田 憲正委員
今治市老人クラブ連合会元会長 新居田 利忠委員
越智今治農業協同組合常務理事 渡部 浩忠委員

学内出席者 8名

学長
副学長・地（知）の拠点整備事業推進室長
地（知）の拠点整備事業推進室副室長
ライフデザイン学科長
幼児教育学科長
自己点検評価委員長
事務職員 2名

4. 報告事項

- (1) 「平成28年度 今治明德短期大学 地（知）の拠点整備事業 事業報告について」
 - ・事業概要について 連携自治体の課題・本学の取組について
 - ・活動報告について 〈事業1～事業4〉〈国際観光ビジネスコース〉
〈地域交流実践演習Ⅰ・Ⅱ〉〈大学公開講座〉〈シンポジウム〉
 - ・活動の成果について
- (2) 「平成29年度 今治明德短期大学 地（知）の拠点整備事業 事業計画について」

ご質問

Q： 活動をされていてご苦労されたことや卒業後の変化などもあれば教えてほしい。

A： 介護福祉コースに関して言えば、平成元年当時、2年間、1,500時間の授業で介護福祉士の資格取得ができたが、現在では、1,890時間の講義、演習実習を経て介護福祉士の受験資格がもらえる。受験勉強をしながら、平日の授業、土日の授業を組まなければならないことは、学生も教員も無理をしている部分もある。

しかし、介護実習等で施設等の指導者より現場の技術を高めてもらっているが、鳥しょ部の健康教室では、教員自ら実践し、利用者さんと関わっていけるかの対応を実際に見せることができることが大きい。

「商店街の活性化」では市役所や商店街組合の方々に提言させていただいたり、学生が発信する場ができたことは良かった。授業を通して学生の負担はあるが、商店街のインタビュー等の調査により実践力やコミュニケーション力が身についたと感じる。

A： 幼児教育学科では、めいたんパークを実施していく中で、未就園児の参加人数が増えていくと、大学生の施設として建てているので、催しによっては収容人数オーバーをすることもあり、安全面等々で不安もある。そういうこともありながら、学生がそのような体験を通して、地域に根ざした人材として、今年度5名、今治市臨時保育士として就職をしている。

CATVなどは授業をしていると取材に来てくれて、地域の方からも好評である。社会福祉協議会からのイベント参画の依頼等があるが、目一杯しているので学生に主体性をもたせてどうしていくかが課題である。

ご意見：事業活動を多岐にわたってしている事は知っていたが、ここまで細かくしているとは思っていなかった。すばらしい活動をしている。

ご意見：28年度の報告を受けて、多岐にわたって活動をしている。普段の授業も受けながら、土日の活動をしているので、大変であろうと感じた。

ご意見：学長から評価についての報告があったが、S評価を目指して頑張してほしい。

また、このような事業評価の外部評価委員になっていることを誇りに感じる。全体的には、項目が多岐にわたっているので難しい。

地域交流実践演習のテーマが、「商店街の活性化」のひとつのプロセスと最終目標を明確にお話いただいた。実績を見てもみると学生が体験しているまではよくやっている。

究極として、「活性化」をどうするのが説明の中でちょっと十分読み取れなかった。

若い知恵を活性化のためにどういうことをするのかを具体的に提言していくことを期待している。

ご意見：多岐にわたっての取組みは、私どもは評価できるのではないかと思う。新聞等での報道などがある時に、地域の方も理解することが、もっと発信を上手くすべきではないか。

学生が活動を通して今治に興味を持ち、今治が好きになり、今治で就職し、生活をしてもらいたい。学生の発信だけではなく、地（知）の拠点整備事業活動に関わった卒業生を巻き込んだ仕組みを作れば大学が行うだけではなく、もっと広がり評価も上がっていくのではないか。

ご意見：多岐にわたって取り組みをしているが、力が分散していないかという印象を受けた。

28年度「おへんろ」の活動がなかったのは寂しい。「おへんろ」を授業に取り入れたのは、全国で今治明德短期大学である。そこから始まっているので、深く掘り下げることができる。学生の意見を尊重しつつも、世界に発信できる伝統のあるものが地元にあることを知ってもらいたい。

ご意見：「食」ということで、田畑を耕作しているが、害獣が問題である。イノシシなど一つの食材として、ジビエ料理にも関わってもらいたい。

まとめ：第三者評価委員の意見を取り入れながら、今後の活動に活かしていきたい。

また、COC 事業活動を通して、今治市社会福祉協議会と連携も深まり、平成29年度に向けて連携協定書を締結する計画がある。関係団体との連携もでき始めている。



7 參考資料



imjc
IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

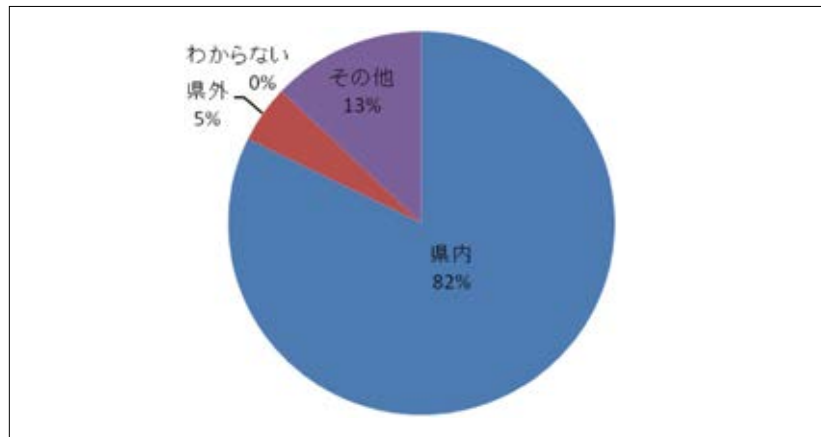
「地（知）の拠点整備事業」アンケート集計表 (学生・教職員・連携自治体)

◆学 生

全学生数	75
有効回答数	62
回 答 率	82.7%

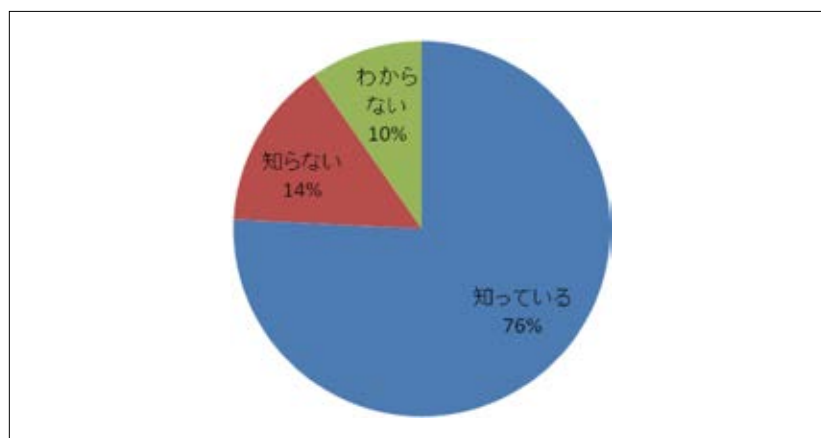
【設問 1】

あなたの出身（出生地）について、当てはまるもの1つを選んでください。



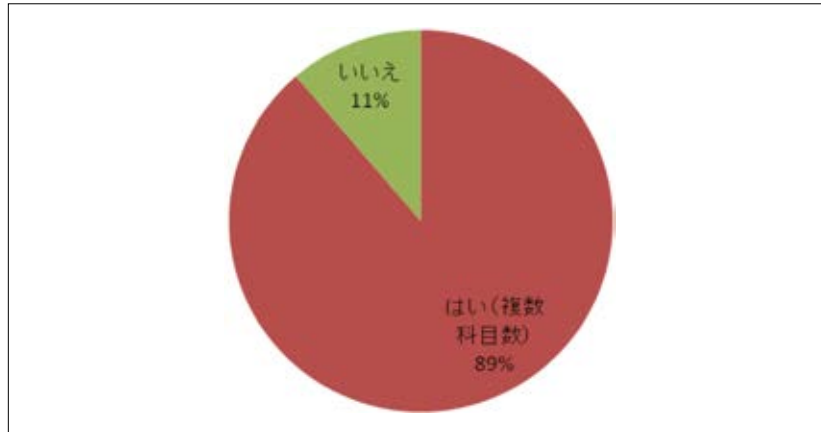
【設問 2】

今治明德短期大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。



【設問3】

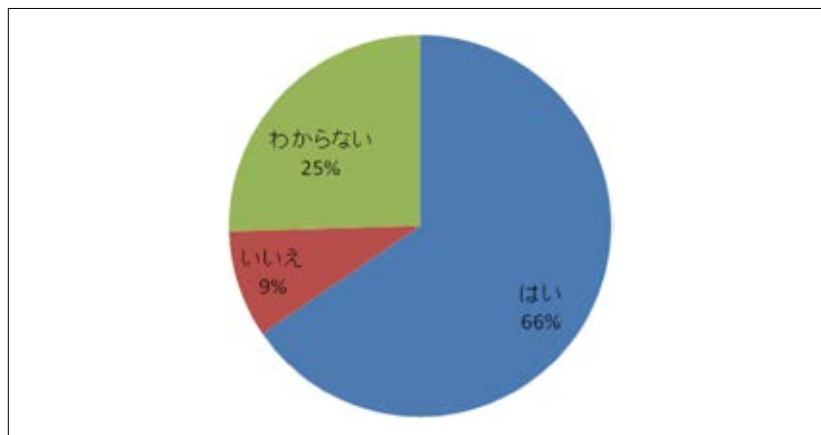
今治明德短期大学が、「地域のための大学」として実施する科目等を受講したことがありますか。



【設問4】

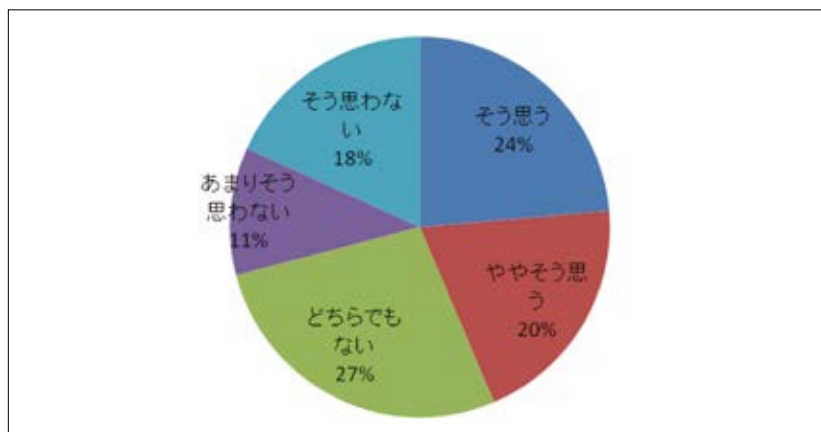
(「2.」の質問で「はい」を選択した方がご回答ください)

3. 上記科目を受講した結果、課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域の問題解決に役立つ知識・理解・能力は深まりましたか。



【設問5】

今治明德短期大学が、「地域のための大学」として実施する科目等の受講が、愛媛県の企業や自治体等に就職しようとするきっかけになりましたか。



【設問 6】

その知識・理解・能力を今後どのように生かしていきたいと思いませんか。

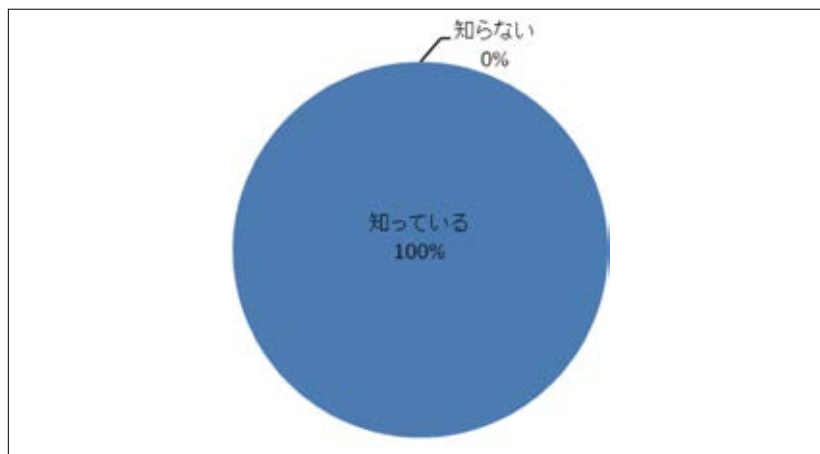
- イベント等に積極的に参加しようと思う（12名）
- 地元企業に就職し、貢献する（8名）
- 何も変わらない

◆教 員

全教員数	19
有効回答数	19
回答率	100%

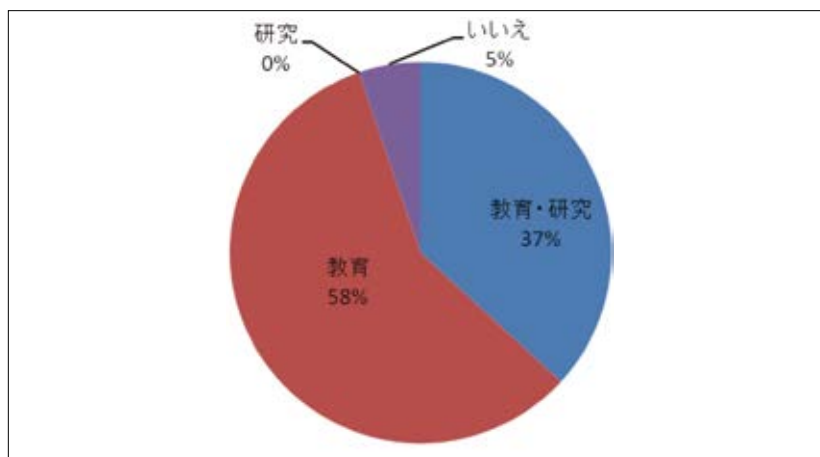
【設問 1】

今治明德短期大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。



【設問 2】

「地域のための大学」として、地域を志向した教育・研究に参加していますか。

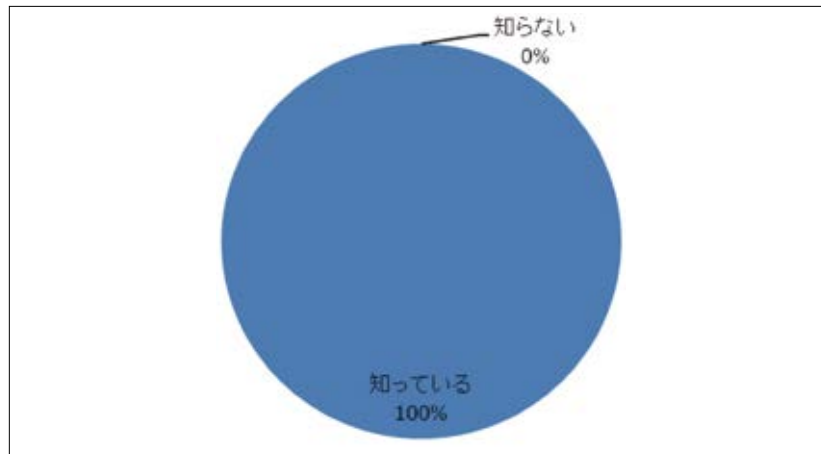


◆職員

全職員数	16
有効回答数	16
回答率	100%

【設問1】

今治明德短期大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。



◆連携自治体 今治市

【設問1】

今治明德短期大学の取組は、副申した事業計画どおりに進捗していると思いますか。

【回答】

- ・事前協議を十分行い、事業計画書どおり進捗している。

【設問2】

今治明德短期大学の取組について、円滑な連携のもとに実施されていると思いますか。

【回答】

- ・本市の関係部課と連携しながら円滑に進められている。

【設問3】

今治明德短期大学の取組は「地域のための大学」として満足するものですか。

【回答】

- ・当該大学が、本市が抱えている課題事項に積極的に取り組み、解決につながるものと期待している。大いに満足である。

平成28年度活動報告書
文部科学省 地（知）の拠点整備事業

今治明德短期大学
しまなみの生活と文化を守りそだてる人づくり・つながりづくり

imjc
IMABARI HEITOKU JUNIOR COLLEGE



〒794-0073
愛媛県今治市矢田甲 688
TEL 0898-22-7279（代表）
0898-22-7366（COC 推進室直通）
FAX 0898-22-7857
MAIL info@meitan.ac.jp